

特.57
995

京都名所案内下

三府名所獨家内圖會卷之三

平安

馬場文英編輯

京都の部下

○南の方 異宇治とて起る南方は名

所を經て坤の方に至る曠路を記す

○宇治郷 觀月橋の南詰を東南小至る五十餘

町川上小治の宇治橋は西詰小達を是を宇治

橋の東を方と云ふ

○宇治橋 近江國琵琶湖の水此橋下小流れ至

是は宇治川と云ふ此橋三坪間は水を名水

と稱す茶の合す云通圓の茶屋ハ東詰

小治と孝徳天皇大化三年元其寺の道昭和尚

架川に也此川上小治と二平町計小鹿飛米

磨鈍子の口もと云ふ名所也夫とて近江

國石山に至る徑路は難所なり宇治より三

里計ありて遠く又橋は二町計り下小橋小

嶋崎といふ名所旧跡あり佐々木高綱提原

景季と先陣の争ひし所あり平家物語盛衰

記等小く又古歌多し其下小模島あり



○平等院 宇治橋より川上三丁計あり初めハ河原左大臣融の別荘なり其後陽成院此地小行宮を建玉を宇治院と号し又長徳四年御堂関白此院を得て山莊とゆ一其後子息宇治関白頼通永養七年寺と名一今は寺号小攻め法華三昧を修す仙殿ハ鳳凰の象り左右の高接回廊を兩翼と一後背ハ廊ハ尾を棟上ハ雌雄ハ鳳凰なり風小隨ふて舞ハ鳳凰堂と稱す木尊阿弥陀仏六尺ハ坐像定朝の作ニ堂内の長押ハ六五菩薩の像あり鈎殿最勝堂

と稱し十一面觀音と安き當時の佛殿ハ建嘗已來回祿け災なく京都名所最一の古雅なり美賞する処あり治養四年源三位頼政入道高倉宮を勸め謀反企て平家ハ為小敗績一當寺小入て自殺其古跡を扇に芝と云故小頼政の鑑鏡等現存付室と云

○橋姫社 橋は西詰小祠と祀り所の神諸説ありて是非を別し俗人結縁離縁を祈願する小具驗ありと云ふ

○縣社 平等院ハ南小祠あり祭神諸説あり畧之例祭六月五日夜京都より群祭と云

○興聖寺 宇治橋の東詰ト二町計川上小祠あり禪宗曹洞派開山道玄和尚佛殿小釈迦仏を安す當寺ハ旧深草里小祠一端中絶せしを正保年中城列淀城主永井直政此小再建中興開山を不安和尚とい門前坂路ハ岩を鑿り琴坂と云ふ山吹名所なり

○惠心院 興聖寺北小祠朝日山と云ふ真言宗開基ハ惠心僧都本尊六日如来ハ弘法大師作又惠心僧都の像と安す

○橋寺 橋北東小の常光寺放生院と号す本尊地藏菩薩開基道昭和尚

○離宮八幡 惠心院の北小の祭神應神天皇仁徳天皇允道尊平等院は鎮守宇治郷の産神

○喜撰嶽 宇治より一里計り東南に撰川村に山上に岩窟あり喜撰洞と云ふ喜撰法師の住したる跡なり

○茶園 此辺茶園多し茶は海内無双の別品にして製茶と諸國海外に至る迄其佳美を賞す山城國第一の名産といふ又五六月の夕小ハ

川辺小堂群と都人納涼を兼ね見物小来る者多し又橋の西詰南川辺小割烹たり鯉鮒鱈の滋味他小勝る

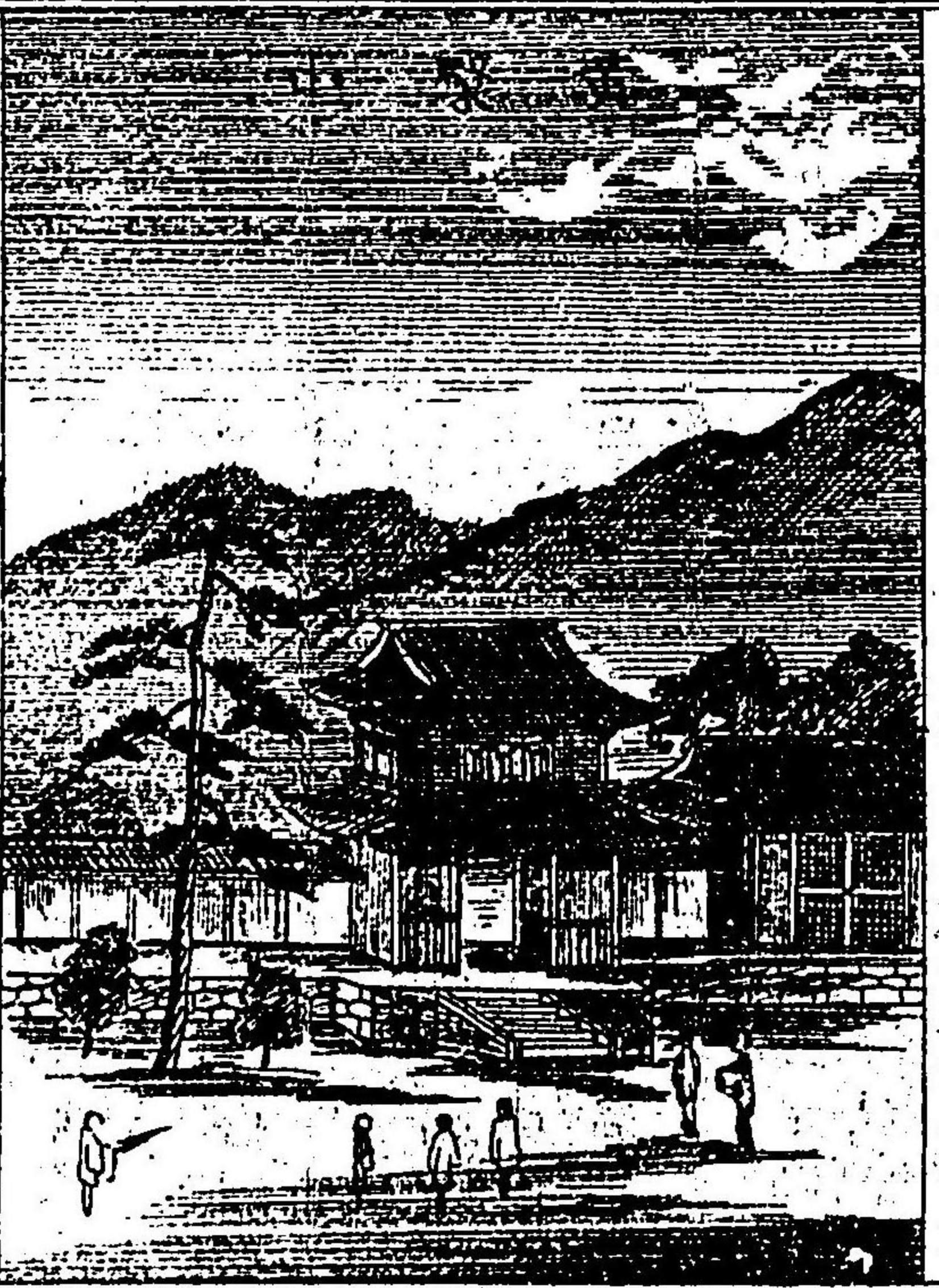
○三室戸寺 宇治の東北明星山と云ふ光仁天皇の御願より関基ハ智澄大師本尊千手觀音山浮檀金立像八寸五分宇治山は東岩淵より出現せると云西國順礼第十番に札所なり

○黄檗山万福寺 三室戸の西五ヶ庄村の南小あを明暦元年開山大明福川の僧隱元禪師也

寛文元年小至り伽藍成就後水尾天皇より大光普照國師と諡を賜ふ堂殿悉く支那の様式を摸す

○鷲峰山金胎寺 宇治田原郷に白く見一里半大道寺村より三十六町なり一町毎小標石あり相樂郡和束郷原山村に嶺小あり京より八

里南東天武天皇白鳳四年役行者天竺靈鷲山を此山小移し八ツの嶺ハ八葉蓮華小表し釈迦阿彌陀嶽弥勒菩薩生岳阿闍維岳不慮岳奴樂岳と号し巖頭小坐して修法す其



宇治の橋寺

後養老六年越比白山の行者泰澄法師七堂伽藍の造営を其後荒廢して今僅小存す

○百丈山大智寺 相樂郡和東郷湯舟の奥小杉村小川の鷲峰山の東なり郷口より山田村

越て湯舟に至る四里余なり京都より十里計禪宗にて江列山上永源寺小属十開山大觀

禪師本尊釈迦仙の安阿弥の作本願山名伯耆守に建立後東福門院仙殿を再建する方丈

より山上十町斗小坐禪石より高さ三十間横幅二十間頂上より平方十間計り即ち大觀禪師

一千日坐禪しる處なり其外灵石多し畧之

○推尾山光明寺 長池の南觀音堂村小なり本尊十一面觀音の行基の作也

○五水里 長池は南一里余小なり山吹は名所の旧跡ハ此里に南小あり

○井堤里 五水は駅は東也井堤左大臣橘諸兄の旧跡ハ此里に南小あり

○井堤五川 水上ハ井堤里の東二里計和東より流れて井堤を過り玉水里に西へ流れて木津川に入る日本六の玉川の一なり共ハ山吹の名所古哥多し

○普門山饗満寺 綺田村小あり本尊釈迦仙を安んず真言宗寺記小曰く昔至善は里人蟹と助け又蛇は蠶と吞を見て蛇小其蠶を放ち助る

我娘の聲小せん蛇即ち蠶を放ち其里人み娘小彼蛇を斬り時小助かりし蟹來りて彼蛇を狹斬りぬ其地小寺を營む云

○北吉野神童寺 綺田は東山中小なり此所伊賀街道神童寺越へ云真言宗本尊藏王権現立像八尺開山堂ハ役行者を安んず

○妙勝寺 木津川に西新村小なり禪宗開基大



京都外傳 卷之十

應國師正應年中艸創又一林和尚再興其山殿
本尊釈迦山を安と閑山堂、大應國師像を安
す方丈ハ一林和尚を安す

○水津川 水源ハ伊賀國山田郡阿知より出伊
賀半國ハ水此川ハ流を末ハ淀川ハ落る霖雨
少トキト東風つと吹時ハ満水ト堤
溢る

○瓶原 狛里の東一里少ト昔より名所ハ
して古哥多し

○杯の杜 瓶原郷中西村少ト名所古哥多し
篇の瀧衣ハ瀧真田川の名所ト也

○國分寺 同御河原村少ト本尊阿弥陀仏聖
武帝の御願開基ハ行基大士

○海修山寺 瓶原郷佛生寺村の山上少ト真
言本尊十一面觀音脇士地藏毘沙門を安と聖

○武天皇勅願所三重塔文珠堂少ト
空置寺 相樂郡笠置少ト京都より十二里

○鹿路山と稱と天武天皇ハ創建本堂本尊彌勒
仏ハ自然石ハ刻と元弘ハ乱ハ後醍醐帝此ハ

山籠ト玉ハ東兵襲來ト皇居を火ト此時殿堂

多く滅して今僅クハ小堂のみ遺れり藥師石
高ハ十間横五間屋空藏石高ハ八間石面ハ仏
像見ハ文珠石高ハ五間横四間千手屈胎内潜
り本丸跡二の丸跡等の名所數々ト也

○巨椋湖 八幡ハ東北淀の小橋北詰より東北
五十町許リ伏見の町少至り同所觀月橋の南

詰少り此地ハ宇治川より入來る水ト南
北五十町許少して周廻九五里と云府下第一

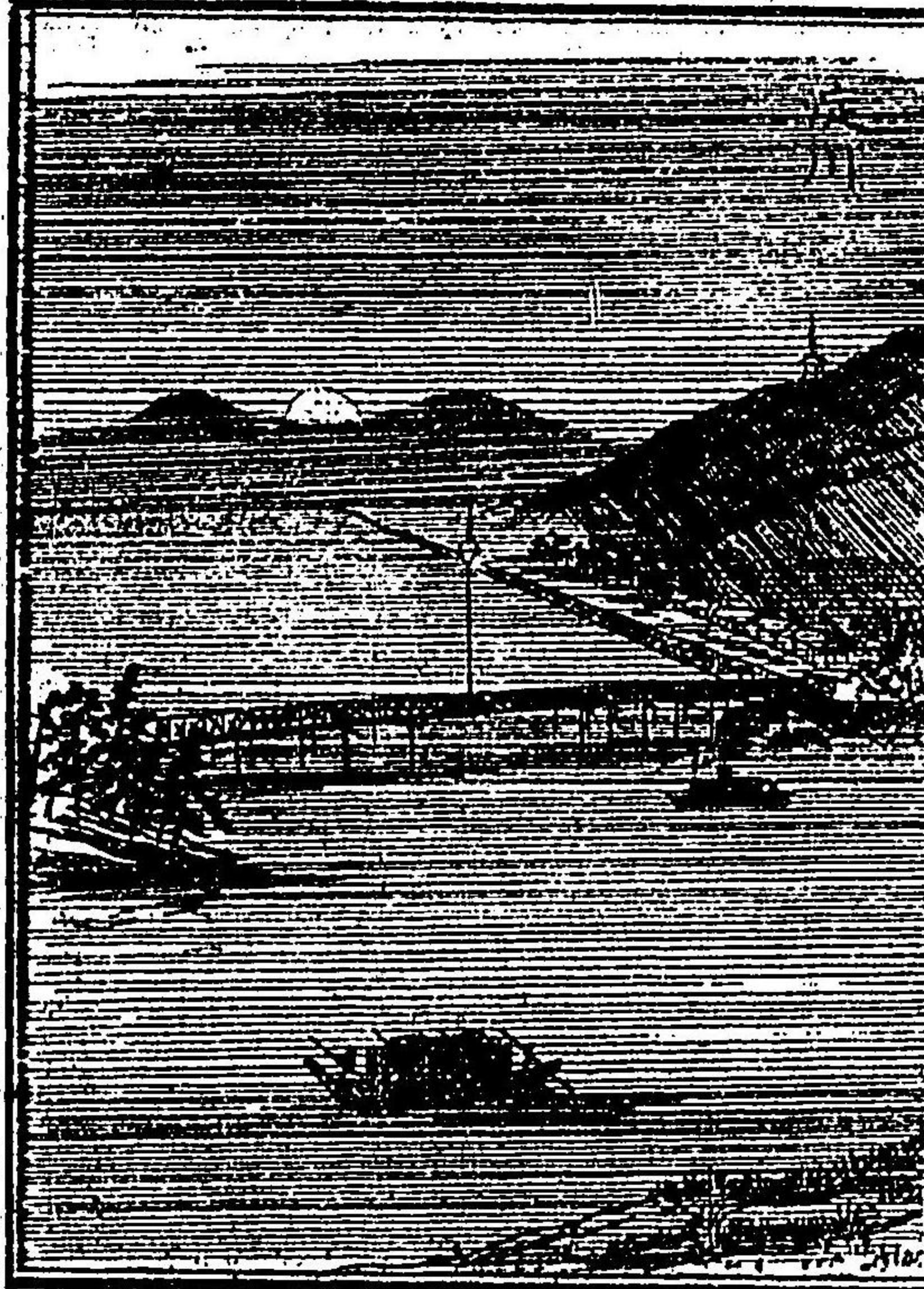
の巨湖少り蝦喜郡ハ属ハ水禽河魚等ハ獵す
夏月蓮花を賞するの名所なり

男山八幡宮



○野山八幡宮 淀川は東綴喜郡八幡莊鳩ヶ峯
 小より京都より五里余南西に當り又石清水
 と称し祭神應神天皇玉依姫神功皇后の三坐
 たり貞觀二年創建和列大安寺行教和尚開基
 官幣大社官祭八月十五日境地廣大にして概
 社未社多く本殿の傍に楠正成奉納の楠大木
 今も存す

○正法寺 八幡の南志水にあり浄土浴東百方
 通に属し本尊阿彌陀恵心は作初に天台宗四
 誓上人開基中央聖譽上人浄土に改む



○洞ヶ峠 八幡の南半里にあり
 ○淀川 畿内第一の大河にして六國の水此小
 會す山城近江河内河水常小靜流し大坂市街
 を通過し川口小多海小入川幅廣く所して
 二百三十間余に至る昼夜通航絶へい
 ○淀大橋 綴喜郡淀町に南より木津川小架
 長は百四十間小橋旧城の北より宇治川
 小架る長は七十間
 小橋を渡り宇治川の堤小治て東へ五十町
 行くと伏見京橋蓬萊橋に至る又小橋は涉
 り北へ直上を横大路村に至り鳥羽よ
 り東寺四ツ塚小達し京小帰る順路なり

○法傳寺 下鳥羽の南にあり始に真言宗聚師
 を安に行基の作也智恩院に智上人開基して
 浄土に改む本尊弥陀仏の恵心の作善導大師
 法然上人を安し

○戀塚寺 下鳥羽にあり銘小曰渡辺左工門尉
 妻袈裟秀玉善尼墓天養元年文覺上人開基貞
 婦袈裟夫小代り遠藤武者小殺す旧地
 ○資相寺 上鳥羽にあり法華宗開基大覺上人

本堂脇檀小松永貞徳は像あり貞徳終焉地
○吉祥院天満宮 唐橋村以南あり

○水薬師寺 西七條の南より本尊薬師如来
弁財天社下清泉涌出る平清盛熱病の時
此水山々冷せし也
此辺、京師南西の傍より市街小近

○北の方 良の方下鴨より起り一衆
寺八瀬大原を經て北山に至る名
所旧跡を記し

○河合社 寺町今出川より北に至り鴨川を距
へ下鴨の入口より下鴨の橋社なり此地東
ハ高野川西ハ鴨川兩川落合て南小流るるを
以て河合と稱す

○下鴨社 河合社より北二町計官幣大社多々
須王依毗賣大山咋神を祭る或ハ角身命を
凡云山城國一の官小一桓武天皇長岡の京
より遷都以前の鎮座なり境内小松神社あり
此地小諸木を植はる悉く松小化は奇あり又
此の森と云ハ當社前指は本社東の傍小



清泉涌出る冷水小一て夏月池は辺より水茶
屋を拘り貴賤納涼す古き札川の源なる官祭
四月十五日

是より上加茂へ至りハ本社を西へ出て鞍
馬街道を北へ行る加茂川は東岸小徑より
を川に沿て上は二十町計上上加茂に達
○本涌寺 下鴨の北十八丁計松ヶ崎村より
一村皆日蓮宗を闡基日正年中より同
宗の学室とす

○妙泉寺 本涌寺と相並ぬ闡基日像毎秋民俗

題目を唱へての節付て踊る事あり世小長
を題目踊るといふ又寺は後山一八月十六日
の夜妙法二字に形し火を點す東山大文字送
り火の同十近時妙圓寺の大黒元を祀り甲子
日小京師より参詣する者多し

此所より山は添し西へ至て御菩薩池へ出
る徑路あり又此山の西小北へ行く道あり
北岩倉の本道なり又東へ出ると高野川に
距て山端へ出る

○山端今高野河 高野川の東より割烹店平
八山五杯りたりを麥飯を販ふ又饅頭鮎鱈
鱧海川は魚類を料理を殊に美味なり庭前小
清川を注ぐ山岫峰へ漫遊雅逸の地なり

○詩仙堂 山端より十町計東南一葉寺村より
鴻橋石川大山の別荘なり堂は四壁小漢晋
唐宋の詩人三十六像を狩野尚信画す其人贊
と大山書す又遺物の現琴竹根の如意書籍多
なり

○修覺寺御茶屋 詩仙堂より八町計北より
後水尾天皇行宮の地なり奇景美麗筆墨小尽
なり

一泉石山景自然の雅興よりて四季の眺め賞
譽小絶へず諸人の從覽を許さる

○赤山社 修覺寺村の北より此神は天台宗
の護法神なり赤山とい震旦の山名なりそ
此社前と東へ登る道あり比叡山は遠く雲
母越なり又此南修學寺と一葉寺とい間東
へ登る所小雲母の不動と云有此所より上
る本道とい

修學寺御茶屋



京者名所類聚

○御蔭社 高野村の河を赤山より北東廿丁計下鴨皇太神宮降臨の地なり故に御生山といふ例祭四月中廿五日なり御蔭祭といふ

○大原里 高野村の北にあり此辺賤女馬を追ひ黒木真茶など頭小いもの死都み大小路を驚くをま他の國に類ひるは風俗いや珍らし之は大原女といふ此里辺田圃少く山稼を専一せし

○寂光院 大原郷草生村のあり弘法大師開基本尊地藏尊ハ聖徳太子作文治の頃高倉天皇の后建礼門院閑居の地あり故に門院は御影阿波内侍の像あり真言宗に了尼寺なり又同村に龍清水あり謡曲は聞へて世の人を知る處なり此寺は什宝に須内裏に記あり

○證據阿弥陀 大原にあり魚山勝林寺と号す坐像長七尺佛工は祖康成の作開基寂源法師文治二年法然上人 大原問答の時證據に立らむ故名といふ

○來迎院 大原來迎院村にあり魚山と稱す本尊藥師佛開基良忍上人

○音無滝 來迎院の東四町にあり飛泉二丈余翠岩に傍て南に落る名所古歌あり

○古知谷 勝林寺より十八町北にあり光明山阿弥陀寺と号し淨土宗開基彈誓上人本尊阿弥陀仏ハ恵心作

○芥生里 大原郷にあり古より和哥小多く詠

○比叡山 京都より良方四里斗京都に方より登道四筋より南より白川より東山中村

比叡山



京者名所繪卷内 卷之十

を經て無動寺小至ほ又一乘寺村より登り
東塔小至ほ又修学寺より登り雲母坂四明
嶽小達す又八瀬より上は走出しと云西塔
横川小至ほ當山山城近江小跨る大山小
して登り道何れも險阻あり食物草鞋等以
賣家なし

比叡山延曆寺ハ桓武天皇延曆七年傳教大師
の開基小して日本五山ハ一王城守護の具嶽
なり往昔ハ三千坊ありと云一山の衆徒共拔
扈すると織田信長之を悪くみ永禄年間火屠
せしよし甚く衰微す徳川家小至り今ハ如く
再興せりきり根本中堂本尊藥師如來傳教
大師傳教大師○戒壇堂嵯峨天皇建立弘仁十四
年慈覺大師入唐して五臺堂の土を持歸り壇
下小埋む所なり○文珠堂慈覺大師建立○大
講堂大日佛梵天帝釈文珠佛等を安んじ○前唐
院慈覺大師の窟なり○千手堂千手觀音を安
んじ淨土院傳教大師の窟なり○山王院智證大
師本房也○千手井俗小牙慶水と云ふ
以上東塔と云此東塔ハ東谷十一坊西谷十

比叡山戒壇堂

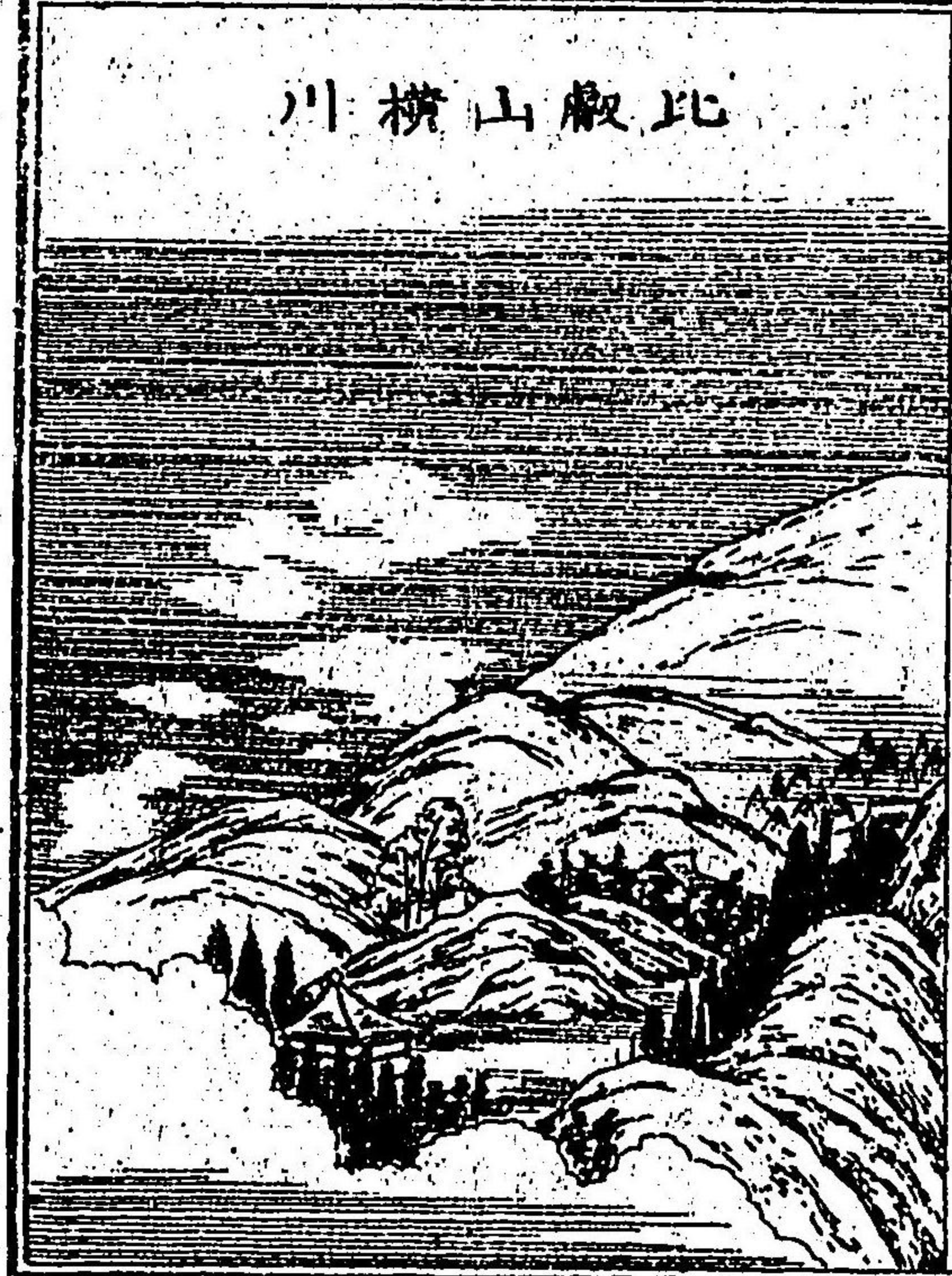


一坊南谷小十二坊北谷小十二坊あり合し
て四十六坊

法華堂本尊普賢菩薩○常行堂本尊阿彌陀仏
○釈迦堂本尊釈迦尊文殊四天王兼和元年建
立○相輪塔俗小王城鬼門柱と云高ハ四丈五
尺九層あり傳教大師の銘あり弘仁十一年と
あり○椿堂如意輪觀音を安んじ○宝幢院惠亮
和尚の窟塔○水照谷青竜寺本尊文殊十一面
觀音及び淨名居士の影を安んじ法然上人此所
小住居ありし也

以上西塔と云東谷小九坊南谷小十坊北谷
 十二坊浄土院を下りて谷川を界とし
 中堂本尊聖観音慈覚大師作脇士毘沙門不動
 ○慈恵大師唐元三大師と云○四季講堂○大
 師堂村上天皇御願慈恵大師開基弥勒如意輪
 不動山王を安んじ○観音堂華表岡又不二門と
 云○飯室横川に別也宝満寺と云不動堂あり
 ○安樂院恵心僧都の住所也本尊阿弥陀山恵
 心の作又恵心の像あり
 以上横川と標嚴院と号十四坊在り

比叡山横川



大乘院慈鎮和尚の住も居処也親鸞上人と此
 院に住て天台日學文有る山内第一に絶
 景なり○辨財天例年巳の日参詣あり○南光
 坊慈眼大師と云○雲母坂不動本尊不動明王
 傳教大師作雲母寺の額ハ石川文山筆なり

以上無動寺といふ十三坊有り
 四明ヶ嶽 敷山第一に絶也雲母坂より登りて
 山上小石佛に安んず是山城近江に界なり絶頂
 より西海淡路島四國海路幽小見ゆ東江眺
 めハ近江八景一目小観下西を臨めハ京師
 を見下す絶景あり

大講堂は前を東へ下りて四辻あり是を満
 土混論辻といふ南へ下きハ無動寺に至り
 山中越又ハ一氣寺村へ出る道あり西へ下
 れハ雲母坂へ出た北へ下きハ八瀬走出し
 小出る東へ下きハ坂木山王八王子(出工唐
 崎三井寺より大津小至る順路なり)

○三宅八幡 山端より直路村は北端に高野川
 小架る橋あり是を渡りて北小至る山端より
 八町許東側山際小森あり小兒は病小駭あり



とて常小茶詣身

○北岩倉大雲寺 京より松ヶ崎を経て北の方

に至る九二里半天台宗本尊聖観音立像行基
の作大雲寺は願の参議佐理は書関基の智辨僧
正なり願狂人の連來りて庵り堂に留り平愈
を祈る

○鞍馬寺毘沙門天 岩倉より北九一里半計り

松尾山と称し天台宗本尊毘沙門天延暦十五
年大中大夫藤原野人當山に於て本尊の感得
一堂舎を建立し源牛若丸當坊中東光坊小住

せりぬるは多盛衰記小見へあり山門は往還

の傍小回り是より本堂へ八丁回り此山門前

を北へ往く若狭街道へ出り又大悲山への本

道は京都より鞍馬山へ三里余

○觀明神社 本堂の下小回り大門より三丁山

上祭神大己貴命天慶年中の勸請小して鞍馬

村の産土神とい例祭十月九日あり八日は夜

大松明小火を點し里民神輿を迎ふ之を鞍馬

の火祭とい六月廿日竹切の祭あり

○僧正谷 鞍馬寺より貴船へ下り中間小回り

僧正坊の小社あり源牛若丸僧正坊小劔法を

授り煉磨せし跡あり其辺り小ある岩石小

刀劔の痕小似るほり

○貴布祢社 僧正谷の西下三町計小有水神岡

象女神の二神を祭る奥の社へ八町あり是より

南へ出き又二ノ瀬村に至る

○大悲山峰定寺 鞍馬より五里北寺谷村小回り

り京より九里天台宗平清盛の創建観音堂は

巖上小回り関基より回祿の災なり故小山門

堂造古雅なり三本杉の大樹乳岩等の名所有

鞍馬寺



○市原小町寺 鞍馬より一里余市原村の南小
 あり鞍馬貴船二の瀬野中市原五ヶ村の埋葬
 地を菩提洛寺と号し往古清原深養父幽棲
 の旧跡なり

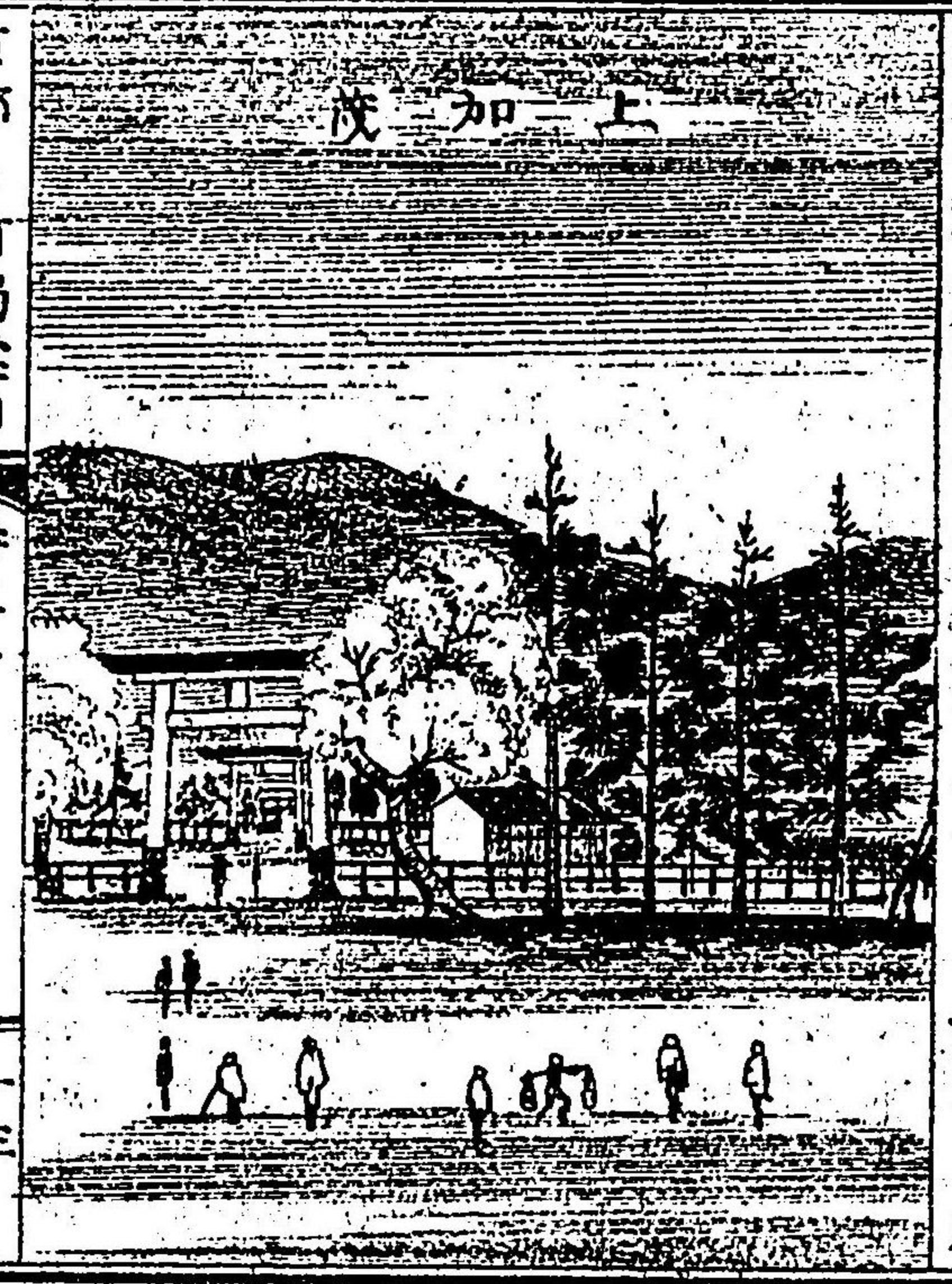
此所より六町計南小出きハ二軒茶屋と云
 あて右ハ上加茂紫竹へ至る左ハ御菩薩池
 下鴨へ至る道なり

○岩屋山金峯寺 愛宕郡出谷村の北小町に在
 より四里十二丁真言宗本尊不動明王也空海
 の作額ハ後奈良天皇の宸翰

○西加茂神光院 上加茂の北加茂川に西にありて真言開基弘法大師少くして自作の像を安置し本尊愛深明王弘法に作也

○靈源寺 同所にありて後水尾法皇御願開基山頂國師本尊釈迦仏殿檀小後水尾帝聖像又開山の像は安じ辨財天社東福門院作神像横鐘ハ大仏殿銅像は金と以て造り

○上加茂社 愛宕郡上加茂村小あて京三條大橋より北の方五十町計官幣大社山城國一の宮なり祭神賀茂皇大神又別雷皇大神と稱



十天武天皇白鳳五年造宮神前小御手洗川と云清流の傍に山は神山と号し社地廣く風景最よし橋本社岩本社片岡社奈良社若宮新宮其外未社諸殿多し例年五月五日社前馬場小競馬式あり世に聞へ高志又六月三十日

七月一日小神能あり

○御菩薩池 上加茂の東八丁半東御菩薩池村

の民家 此所小古より有名の地裁尊の小堂あり本尊地藏菩薩小野篁の作なり宇治郡六地藏村大善寺小同作の六地藏あり平清盛西光法師に命し都は入口毎小六角の堂を建立して一鉢宛を分ち置けり一ツなり明治維新に當り上賀茂の社領より小善寺小移し今此地小あり

○西堵方

是より北小至山鞍馬一姓と東木街道畑枝村小至又南へ直に行き下鴨村小至

十八町

大徳寺ノ圖



乾の方鷹ヶ峯より起り西山其名所
 旧跡と經く坤の方山崎小畢る
 ○常照寺 鷹ヶ峯今ハ紫竹大門村ふり
 寂光山と号に法華宗徒檀林開基日親上人
 ○源光菴 同所小何里禪宗開基西山和尚
 ○光悦寺 同所少り法華宗初大盧菴と稱す
 羅山此庵の記を書り羅山文集に見ゆ
 ○石門 鷹峯の北小何り両岩何つて高さ數丈
 門を構ふる小似より往古靈嚴寺大慶の門を
 云と云

京都名山所圖卷下

卷下

十四

○菩提護 鷹ヶ峯と一里計西少なり高才四丈八尺巾一間

○今宮社 愛宕郡東紫竹大門村小なり明治十四年府社となり祭神素戔雄命柳稻田姫を祀り長保二年五月勸請堀川以西二條以北の産神の界域最元廣し私祭は五月十五日あり四大祭は一ツ又四月十日を安來祭と云上加茂上野の里民烏帽子素袍を着し太刀をかき鉦鼓少く雜事に赤毛を被り小兒之りれ舞ふ古雅な祭式あり

○大徳寺 今宮北南隣り龍宝山と号し開基大燈國師禪宗正中元年に創建伽藍は赤松圓心山門の連哥師宗長閣は千利休寄附なり雲門庵は大燈國師の像を安ま真珠菴は一休和尚住居地多し其遺物を存す聚光院は利休の墓あり總見院は織田信長の位牌所天瑞寺は豊臣秀吉母公の為に建る所あり

○雲林院 大徳寺の南に東側より淳和帝の離宮なり仁明天皇の皇子常康親王は傳へ天曆帝は時僧正遍照を別當に補せりれ堂塔

金閣寺



嚴重小建とせり今ハ僅小微堂遠れり

○建勲神社 大宮通北極の西舟田山の東麓小

河官幣別格社崇織田信長の靈小して維新

の後織田氏王家の勲功はるが以て此地小社

を建管せり私祭七月二日

○舟田山 建勲神社の山を云ふ山形舟田

似るとして云ふとが應仁年中此小若

を構へ細川山名慶争戦ありし應仁記後大

平記等小見へり

○蓮臺寺 千本通北今宮の南小ゆり真言宗

上品蓮臺寺と号し開基聖徳太子本尊地藏仏

弘法大師の作俗小十二坊と云

○金閣寺

蓮臺寺の西紙屋川の隔て大北山村小

ひで禪宗鹿苑寺と云應永四年の建嘗元足

利義満の山莊にして後寺と為す夢想國師を

開基とし林泉の景色世小名なり三層に金閣

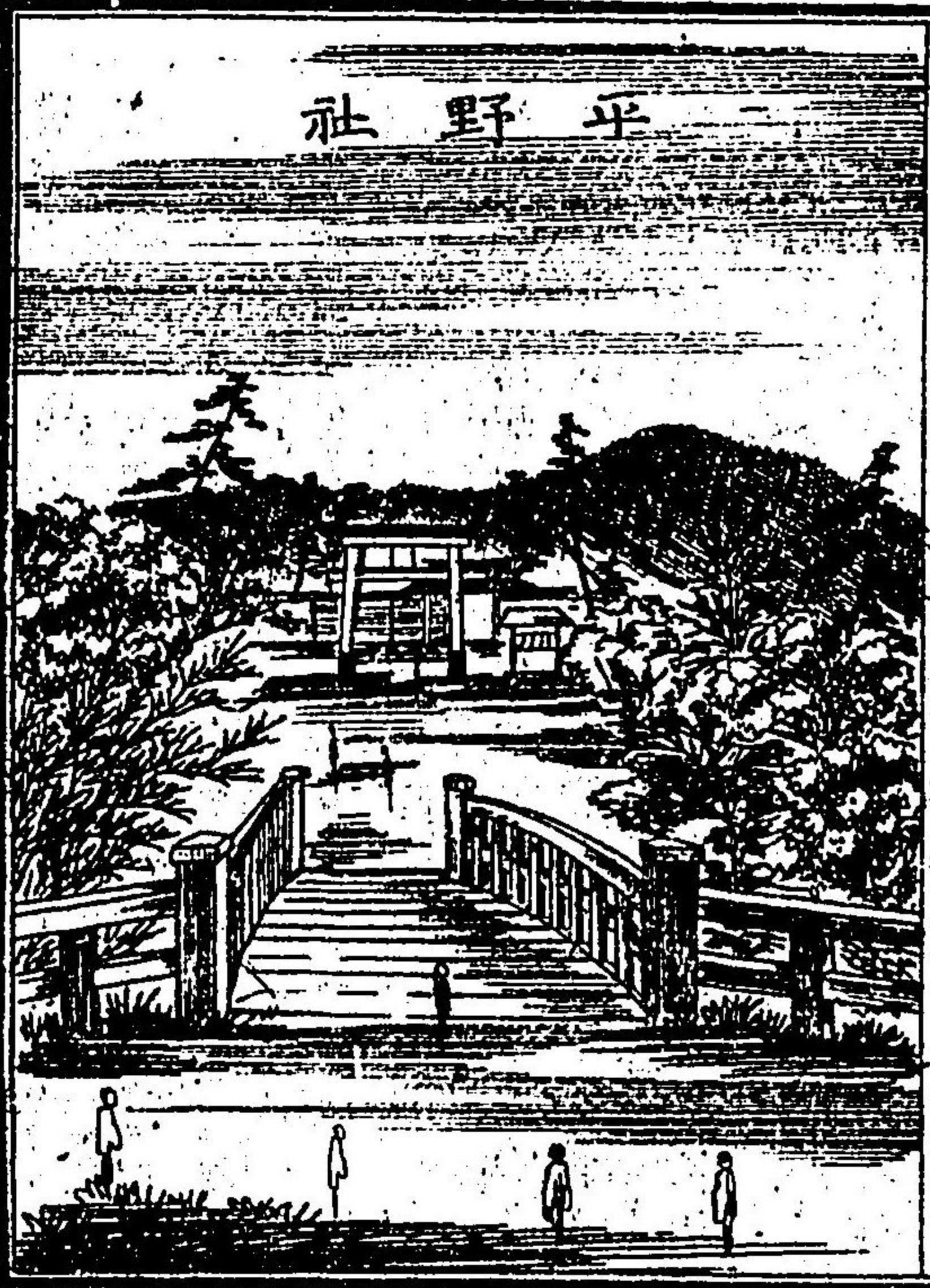
第一重に法水院と号し弥陀の三尊及び夢想

國師足利義満等の像を安置し二重に潮音洞

と云ふ自然木の觀音四天王の像を安置し三重

を究竟頂と名つた天井は三間四方の一枚板

平野社



を以て造り閣は四面に金箔を貼り後小松天

皇の勅額を掲ぐ蓋し金額寺の稱此小起りな

り庭前の西に衣笠山あり池の辺り小南天に

床掛竜門流りて洛西に一勝地なり通券と

齊し諸人縦覽せしむ

○平野神社

金閣寺の南四町小あり此社へ京

都より来る小北野天満官の境内北の門を

出さむ向ひ紙屋川に架る橋を渉り此小至

るに本道は北野より二丁余官幣大社祭所

今水神久度神古閑神姫神なり官祭四月二日

社地小櫻樹多し花の比は平野夜櫻と稱し觀

客夜宴は催す事盛んし他は其景勢を

を開らし

○等持院

平野の西六町計禪宗開基は夢窓國

師足利尊氏建立額に足利義満の筆なり當時

小足利氏累世の水像を安置文久三年二月勤

王の浪士足利氏の不臣を憤り尊氏義詮義滿

三將軍木像の首を伐り三條河原に梟首せり

事世小人の知る処なり

○庵安寺

等持院の西六町計禪宗大雲山と云



○真如寺 松原村あり開基ハ夢窓國師本尊
 釈迦佛光國師達磨佛國夢窓の三影を安す康
 永年中高武藏守師直修造と
 椿寺 紙屋川の西妙心寺道小の地蔵院
 細川勝元建立開基義天和尙本尊釈迦佛大元
 達磨惠光禪師細川勝元の像を安し堂内元井
 の画ハ北殿司の筆なり元此地ハ勝元の別館
 小て方丈ハ勝元書院を以て嘗て境内ハ名池
 あり玄冬ハ鶯鶯集る明治九年より山内西
 の山を關し火葬場設く

と称し此寺ハ椿の大樹あり以て名とい元
 祿年間赤徳ハ義士ハ依頼を得る天野屋理
 兵五此寺ハ住居して歿し庭前ハ墓あり松永
 土齊と云

○妙心寺 竜安寺の南四丁計高野郡池上村
 細川前ハ妙心寺ハ禪宗正法山と称し開山關
 山國師本尊釈迦佛花園天皇創建山内玉鳳院
 ハ花園帝の宸居跡あり萬里小路藤房道世
 ハ當寺ハ入り関山の法脈を嗣ぎ授翁と号し
 當時第二世ハ人なりと云最加蓋鏡と云



妙心寺

の松あり此寺小十景を附す

○御室仁和寺 妙心寺の西北八町許あり真言宗光孝天皇の御願して仁和年中草創

金堂本尊阿彌陀仁脇土観音勢至なり祖師堂寛平法皇宸影弘法大師の像を安す五重

塔九所権現十二権現經藏關伽井下乘の立石藤本甲斐守筆し此地を御室と稱す

宇多天皇勅し寛平元年此地小七堂伽藍并小御室を建首たり延喜帝の御讓位は後此

御室仁和寺



乃御室小移りせ五かを寛平法皇と稱し奉り

つとまはる其後代々法親王御法務ありが推新の後宮は皇族に遷りせ玉ふ境内櫻樹多

其花地上尺小満さるよと咲乱比類る也美観なり尤佳境あり

○雙岡 御室の南あり岳をいふ兼好法師徒然草の撰され旧地なり

○法金剛院 双の岡に麓あり清原真人夏野の別荘たり其子滝雄と双岡に上山莊をい

と名みて後寺なり雙丘寺と号し己に荒廢に及ぬ大治年中侍賢門院再興らて号を法

○金剛院と改む宗旨は四宗兼学中興開基は四覚上人也本尊は阿彌陀丈六の像春日作なり

○妙光寺 鳴滝村小あり御室より八町許西初内大臣師繼の子忠年追福の為山莊を寺と

る妙善寺と号し開基法燈國師本尊釈迦仏を安し宝陀閣の額木庵に筆紫金堂あり旧地ハ

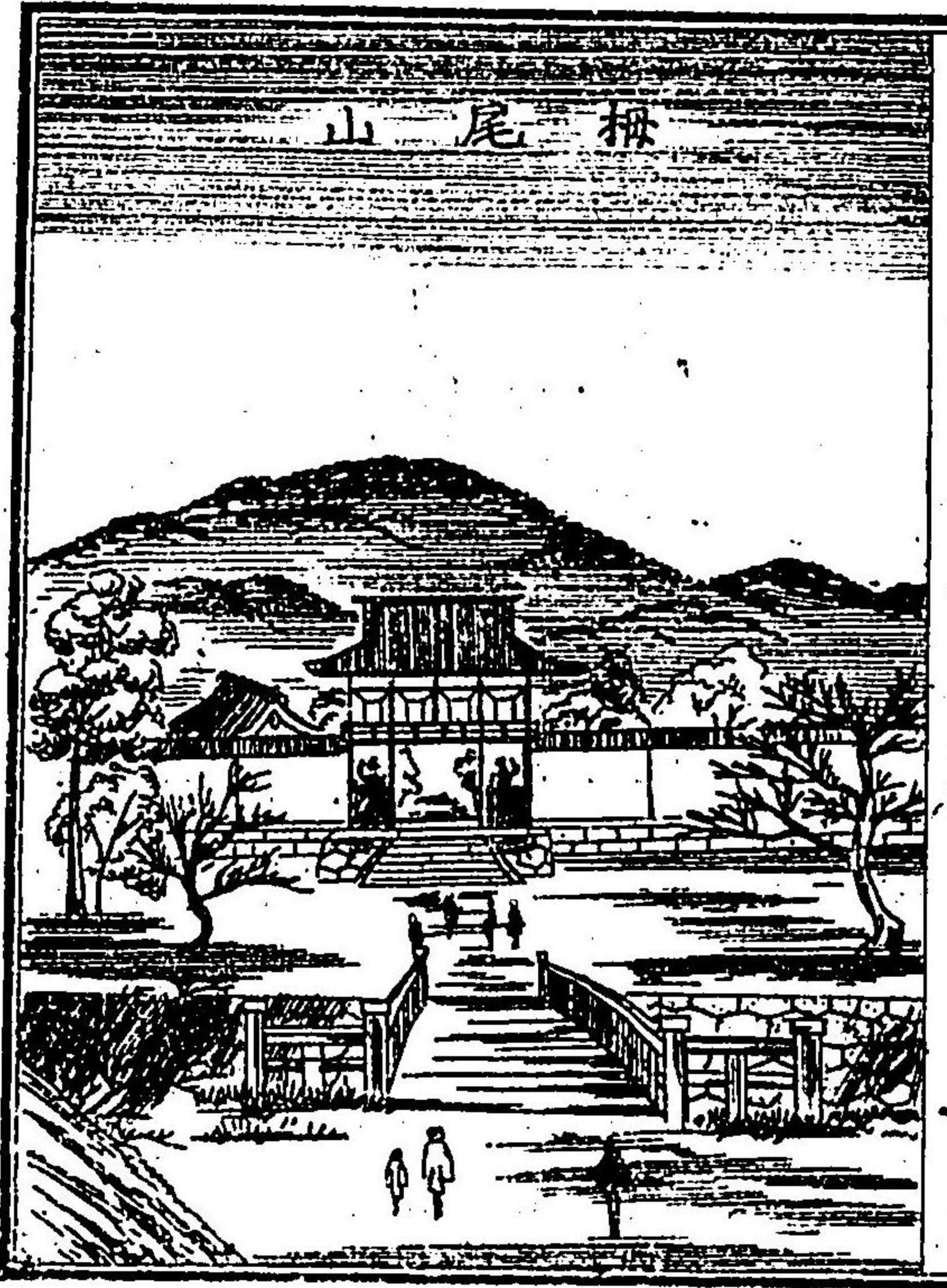
後山小遺る金堂は内四方惣印金を押す莊観あり

○泉谷法藏寺 同村小あり黄檗池小して百拙

和尚の開基なり

○五臺山 同村より般若寺と云開基観賢僧
正本願大江國洲真言宗古義本尊文殊菩薩阿
弥陀堂ハ阿弥陀観音勢至の三尊観賢の坐禪
石ハ北に方なり

鳴滝村野村の西小川あり橋を渉り西小
至き上崖我小至る又橋を渉らばして川
小沼に北小往るハ高尾柵尾小至る
○平岡八幡社 鳴滝村より二十五町計北往來
の東側より弘法大師勧請あり

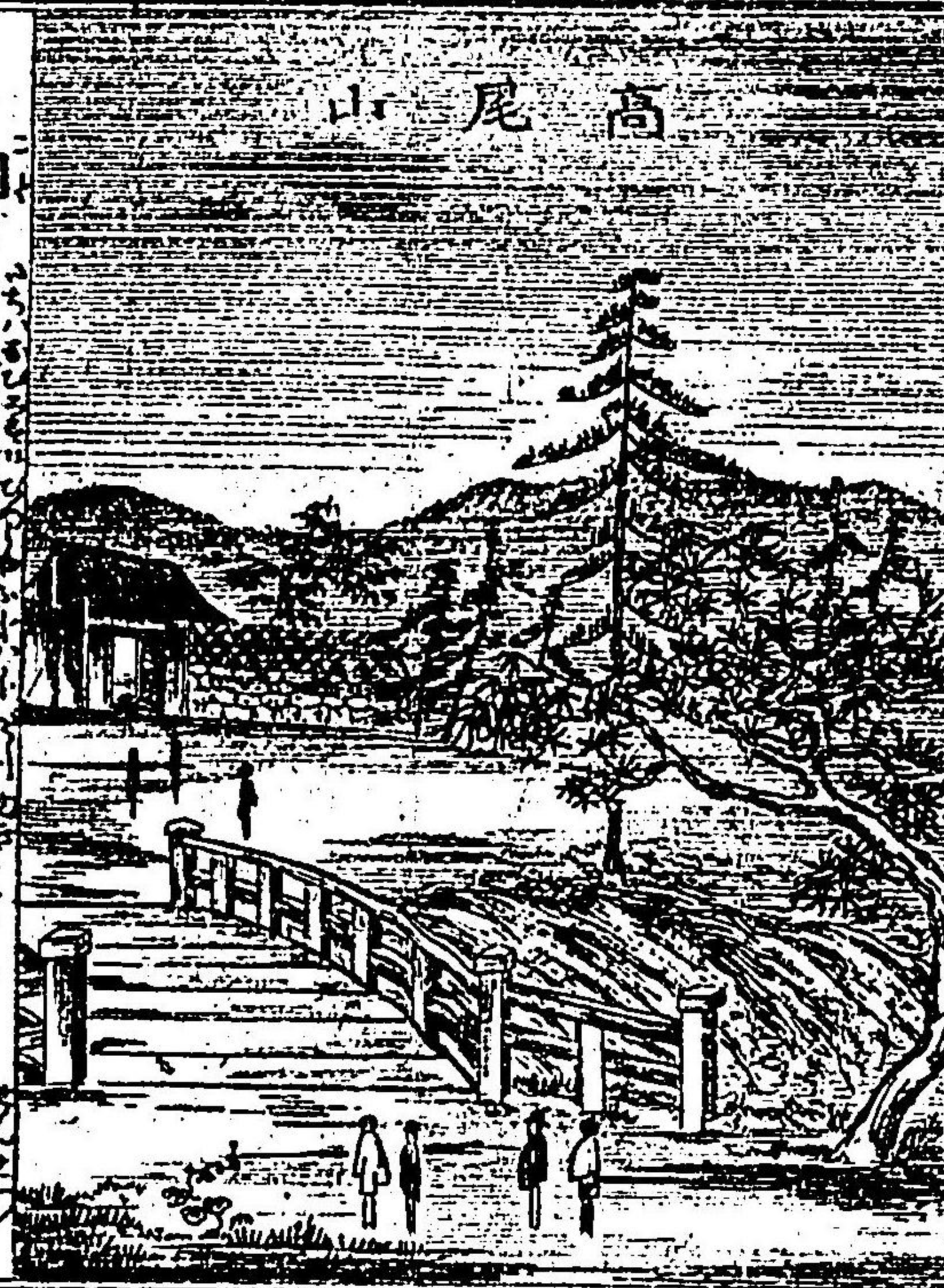


○柵尾山 平岡八幡より二十町計北西華嚴宗
高山寺と号す本尊釈迦仏醍醐天皇の御宇比
叡山法姓坊尊意僧正の開基小して元ハ天台
宗なり中興明惠上人よと今の宗小更しむ上
人茶の実得て裁とめられしよと後宇治
信樂等小移し今世の如く盛ん小ありしと
と境内楓樹の名所よと秋季小ハ京都よと縱
覽人此小來る者多し

○柵尾山平等院 柵尾の西小つとを真言律宗
也開基智泉法師本尊釈迦仏明惠上人の作千
手観音ハ聖徳大師の作又西明寺と号す此寺
内小ハ楓樹多し

○高尾山 柵尾西小つとを四町計小ハ三條
大橋より三里余称徳天皇ハ御宇和氣清磨造
嘗て其後桓武天皇延暦年中弘法大師小賜ハ
り初神願寺と云しハ神護寺と更しめ真言宗
と云る勅して金剛寺の額を空海小書しむ金
堂の本尊薬師如来講堂の五大尊と云ハ弘法
大師の作樓門の額ハ仁和寺覚信法親王の筆
鐘樓ハ金堂の良小ハ鐘の銘ハ菅原是善序

京都府丹波郡 卷之十



高尾山

の詞ハ橘廣相筆者藤原敏行是を世ハ三絶と
号す本朝の名器小して並ぶ者ナシ護王の神
社ハ和氣清磨を祀る所なり此所ハ楓の名所
小して興の地藏院より下ばる溪を遊小見下
す小其佳景言ハん方ナシ

○月輪寺 高尾の西愛宕の山腹小に鎌倉山と
号す本尊十一面觀音祖師堂ハ空也上人親繪
上人月輪殿下の像を安坐開基慶俊法師中興
九條関白兼寶堂前小時雨櫻の常小枝より
霧雨を下す其地廻り何とも温る

是より西へ上りて愛宕山鐵鳥居傍へ出

二十町余

○愛宕山 上嵯峨より一の鳥居小至る水道

とて京より三里二十八町より西北小方嵯
峨釈迦堂より十町往きて一ノ鳥居あり是より
試み坂と云り夫より下りて清滝川橋

の門前と流を距へ登り坂四十余町の高山に
て清滝小ハ茶店探窺屋の又山上小至る近
一町二町毎小茶店を設く半腹の小丹波國

龜田及び其近在村里を眼下小望む山上銅鳥
居の内小坊舎六軒兩側小列も本社祭神軒遇

突智神伊弉册尊又雷神破无神を合祀も當社
元阿太子山推現の本地將軍地藏と

無跡と一帝都火災は守護神と一鷲ヶ峯の
辺小ありと光仁天皇の天應元年慶俊法師

此山を關る勸請ハ朝日山白雲寺と稱し
明治維新後山号寺号を察し根元小更め愛
宕神社と

○水の尾 愛宕山は下一の鳥居より左丹波街
道五十町小に清和天皇の陵曰所推現等

愛宕山



社あり

○妓王寺

一の鳥居と釈迦堂の間西側あり
浄土宗往生院と号す本尊阿彌陀仏脇土の観
音勢至也清盛入道祇王祇女母乃白仏の五塔
あり此三義女之事平家物語に詳し

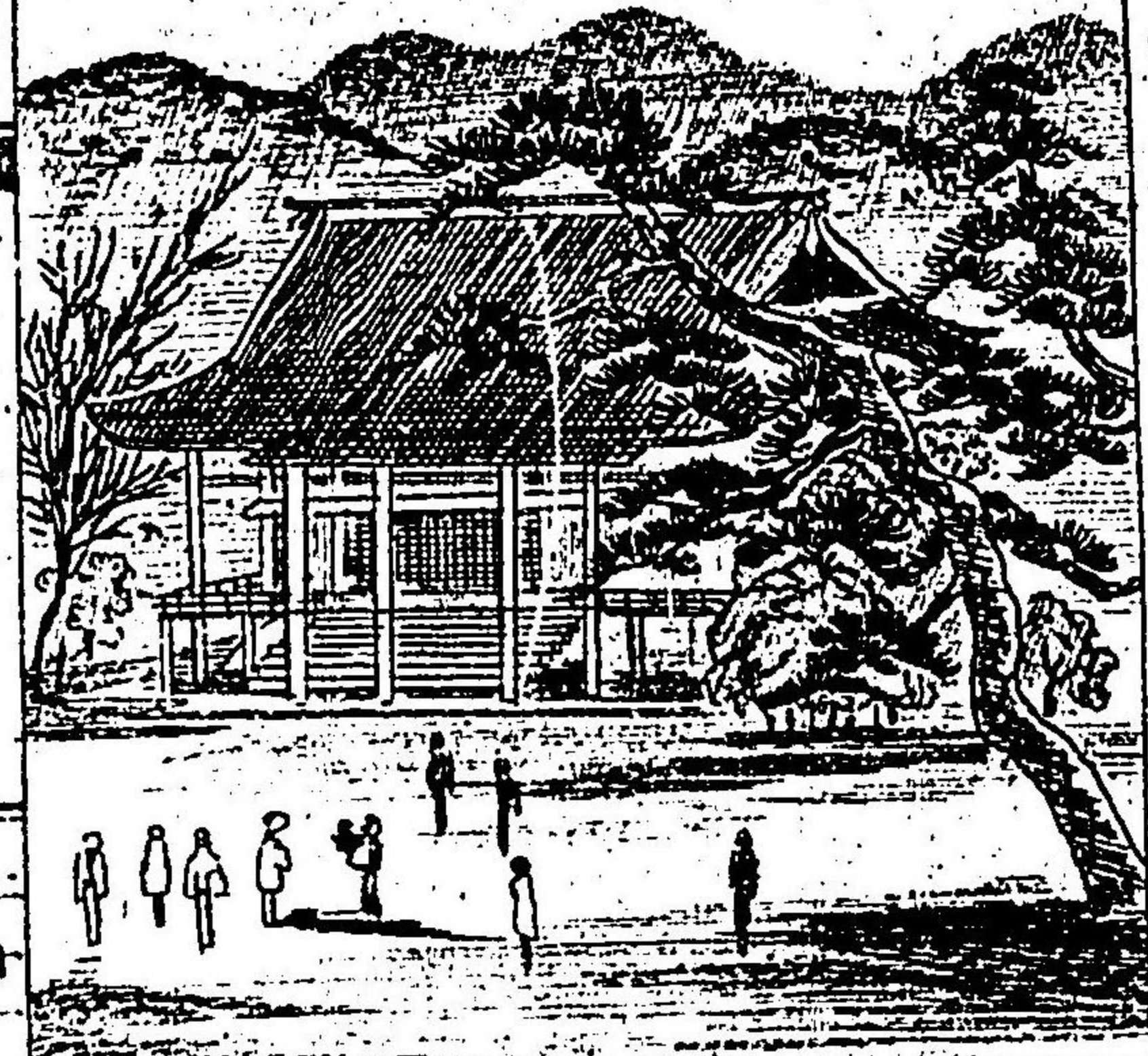
○三寶寺

妓王寺は南小隣に浄土宗往生院と
号す開基良鎮上人哥石門の前あり重盛の
侍士滝口時頼出家して此寺に隠遁す侍女横
笛契情深く跡慕来り時頼の逢さるを恨み石
小一首を残し千鳥淵に身を沈めて歿すと云

○釈迦堂

上嵯峨村にあり京より二里十餘五
蓋山清涼寺と号し本尊釈迦仏立像五尺二分
天竺毘首羯磨天に作釈迦在世の時赤梅櫻片
香木を以て作るなり脇士ハ十大弟子の立
像東西に文殊普賢を安置故に三國無双の
美仙とす一條天皇永延元年南都東大寺に信
齋然入唐し時此像を得て皈朝し伽藍を建
立して安置す阿彌陀堂五大堂二重塔三石塔
四ツ脚門等あり例年三月大念佛あり
此門前小旅庵屋寄賃宿多し是より東

嵯峨釈迦堂



小至也ハ廣澤上ヤ鳴滝御堂小出之水道ナ
セ又釈迦堂の門前と直南小往タハ天竜寺
嵐山松乃尾へ出ル水道あり

○大澤池 清涼寺の民小ワヤ又菊ヶ島と云ハ
池北中島ナリ名所古歌多ク

○大覺寺 同所小ワリ真言宗佛殿本尊五大尊
弘法大師の作開基淳和帝の皇子恒寂法師元

ハ嵯峨天皇の皇居あり一と精舎と一也
三代實録小見へリ此北小蒲生谷と云ワヤ

小松中將惟盛の室子六代ハ匿住ル處也ハ
角堂ハ後宇多帝ハ陵ナリ

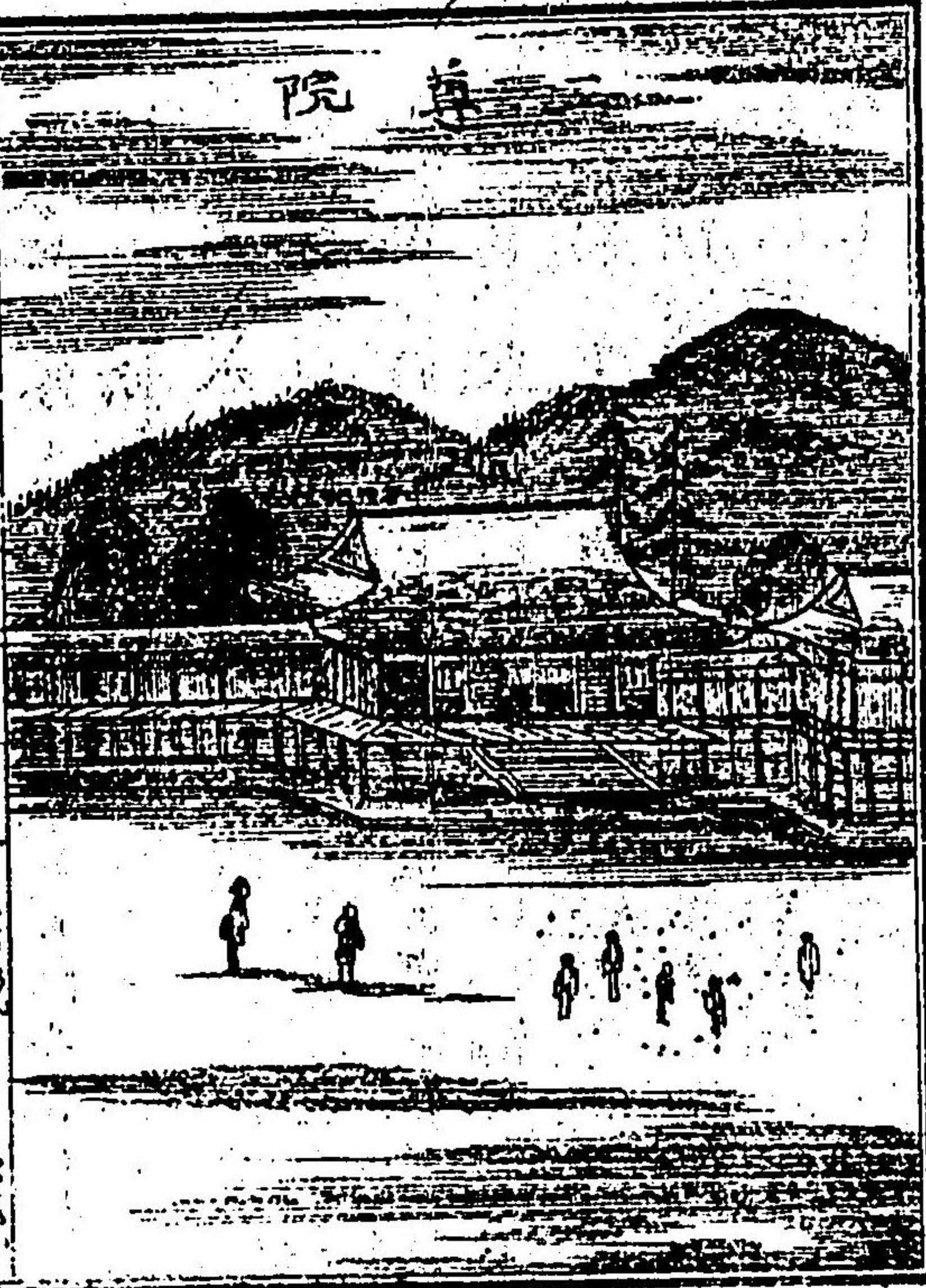
○廣澤池 大澤の異小アモ寛朝僧正此池と造
ル所也東西南北とも凡亘リ三町計リ月日名

所也古哥多一是より鳴滝へ距ル小丘コ帯
リ池足形池ナリワヤ鳴滝へ東十二町計

○小倉山二尊院 釈迦堂の西南小ワヤ天台真
言律浄土四宗兼學求尊阿弥陀釈迦ハ二像と

安シ故小二尊院の号ワヤ念佛堂ハ法然上
人足曳ハ景像を安す中門ハ額ハ後柏原天皇

の宸筆ナリ本堂の額ハ後奈良天皇ハ宸筆二尊



教院トワリ當時ハ嵯峨天皇の創建始ハ草堂
寺ト云其後醍醐帝ハ皇子兼明親王此辺ハ山

莊を設け雄戴殿と稱々中興法然上人居住
定家ハ山莊旧地ハ佛殿の後山腹小ワリ小倉

山ハ楓樹の名所ワリて世人ハ知ル處也
○野宮 小倉山の南敷中小ワリ倭記玉基ハ兩

宮ワリテ神明を祭ル黒木の鳥居小芝墻ハ往
古の遺風ナリト伊勢ハ野宮小立ナリ内親

王此所小寂潔一玉ハ其旧跡
○化野 小倉山北ハ麓ニあり念仙寺と号ス本

尊阿弥陀仙湛慶は作福田寺の南朝は帝俊
 山院は陵の詩息院本尊俱主神は小野宮作
 熾王像弘法大師作地藏尊は満米上人作
 ○天龍寺 釈迦堂より直南八町計大井川渡月
 橋の北詰より豊龜山天龍資聖禪寺と云開
 山夢想國師曆應三年後醍醐天皇追福の為小
 足利尊氏は建立せし所禪宗五山は第一也仙
 殿本尊は釈迦仙脇士文珠普賢と安ま上小
 天照皇大神は銘より梵天帝釈達摩臨濟百大
 の像左右小安ま昭堂は聯芳と号開山像尊
 氏像地藏像と安ま元治元年七月二十日兵火
 此為小殿舎多く焼失也

○大堰川 水上は北丹波より流き水尾川清瀧
 川小落合ひ猿飛龍門滝大瀬等は名なりて嵐
 山は帯は渡月橋を經て桂ヶ里の東を流し桂
 川と稱し末は淀川に入る丹波より常流は
 ○渡月橋 下嵯峨嵐山は東麓大堰川は流き小
 架も所京都より二里五町橋は北詰西小三軒
 茶屋の嵐山は風景小對し遊客は来泊常
 絶へ



京都名所探案 卷之十

○嵐山 渡月橋の川上南岸より亀山天皇和
 列吉野よと櫻樹を多と取とせ此山より移し植
 りと玉ひ行宮より殿覽ありしより今も櫻花
 名所とある戸無瀬滝千鳥洲又山上大悲閣
 あり山麓川添温泉湯と設く春は櫻花爛漫
 杜鵑花嵐山の名は避暑の舟を泛へ
 螢花は光の燈を借りて紅葉は賞して夕の至
 りを忘る雪は且ハ車力を競ふ四時は遊観雅
 俗之を賞す山水は勝景最第一なり

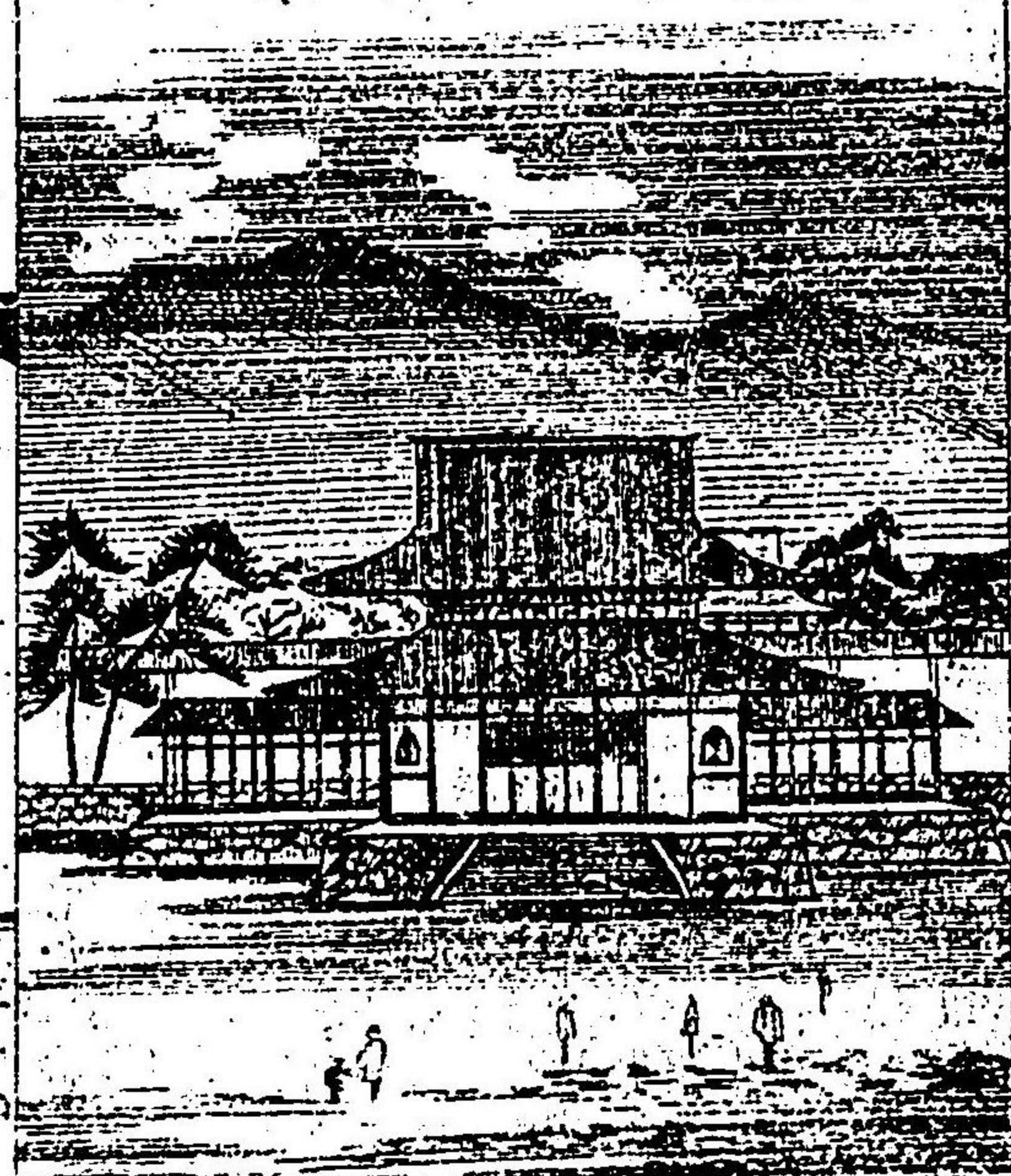
○法輪寺 渡月橋は南詰二町計あり智福山
 と号す真言宗本尊虚空藏菩薩坐像道昌法師
 作天平年中建立初高井寺と云中央開基道昌
 僧都也此寺を元治に乱小天竜寺と共小堂宇
 焼失して再假堂を設け例年四月十三日都鄙
 近隣は兒童十三参りと稱し参詣夥し

此門前を下り川は西岸小浴ひ南八町に至
 り松尾神社に達す
 ○小督塚 三軒屋は南小隣に藪中小に小督
 局ハ櫻町中納言成範女禁中第一は美人也高
 倉院は愛妃也平清盛を恐きて嵯峨野小隱

此住しこと盛衰記に見ゆる
 ○臨川寺 渡月橋は東小に禪家十刹の第二
 かも靈龜山と稱し三會院本尊弥勒仏坐像也
 仏殿の額足利義満筆此地旧龜山法皇の仙居
 して建武二年後醍醐天皇関山夢想國師小
 賜ふ所也

○鹿王院 臨川寺の東小に禪宗十刹也仏殿
 本尊釈迦仏脇士十六羅漢を安し運慶の作開
 基普明國師像尊代像檀上小安し本願足利義
 満也至徳元年建立

寺龍天



京都御所御覽 卷之十一

○車折社 下嵯峨材木町に在り清原真人頼業の靈廟と云商人賣買の價違約なるや此社に祈りて験ありと云

○有栖川 材木町東に在り北より流る大川に入名所古歌の詠あり

○帷子辻 材木町の東に在り檀林皇后の骸骨嵯峨野に捨られた帷子の落散し所と云此所ハ上嵯峨下嵯峨太秦常盤廣沢愛宕等の別道あり

此所を良へ往けば二條道又下三賣通に至



太 秦

又巽に往れば三條通平京區に至る乾の往方ハ上嵯峨愛宕道より西に則ち下嵯峨嵐山天龍寺より至る道あり

○安堵橋 帷子辻の西に在り

○乙子地藏 帷子辻に北東常盤村に在り六地藏あり一なり所詣御菩薩池所小詳あり

○常盤墓 乙子地藏の傍に在り牛若九母常盤ハ此里に産なり

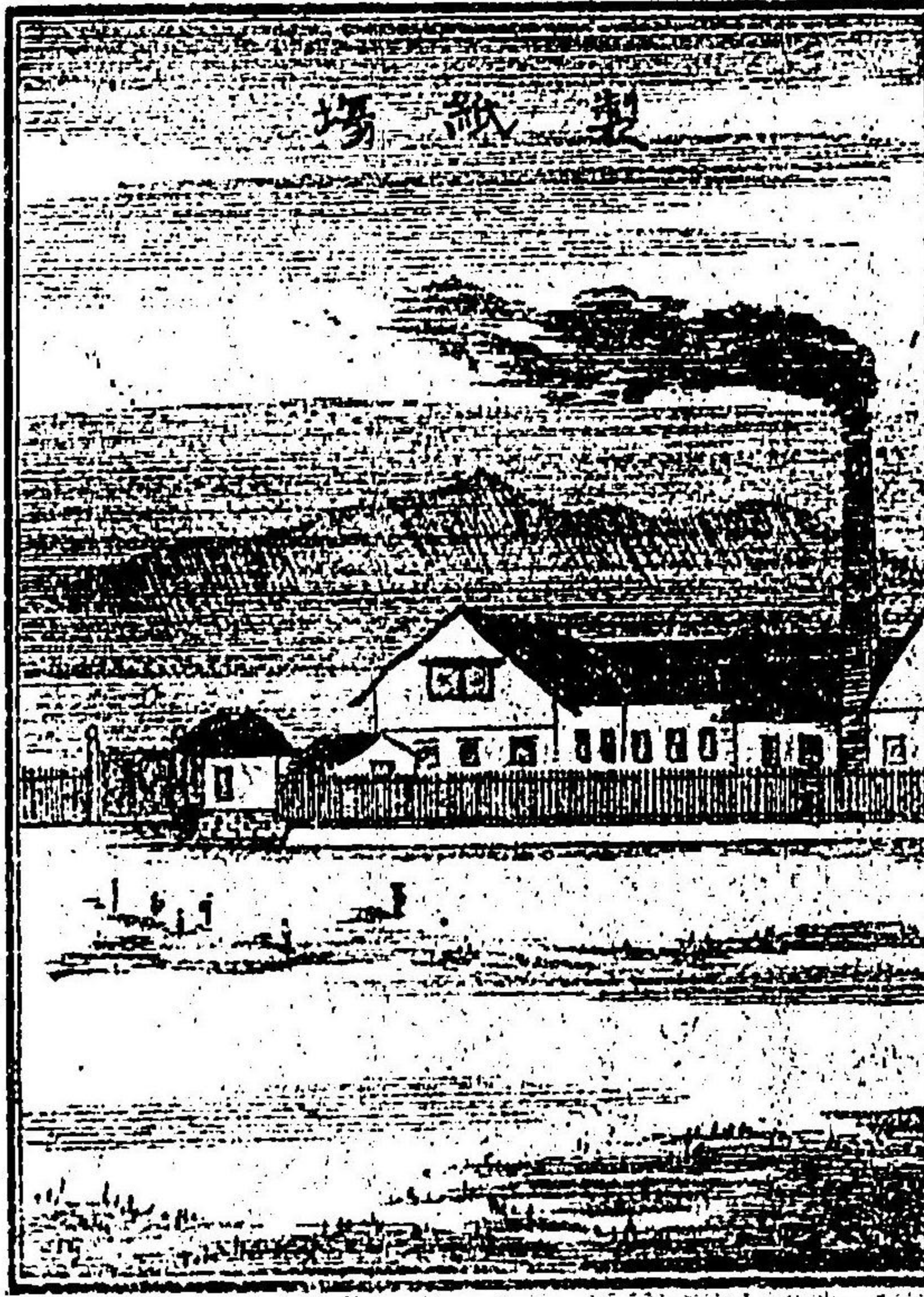
○太秦 帷子辻の東五町計に在り廣隆寺と云推古天皇十二年聖德太子其臣秦川勝命十當寺を建立し則ち假宮を蜂岡小造り百濟國に獻する佛像を安置し是は蜂岡寺と云

後小廣隆寺と改む廣隆ハ川勝の名なり本堂の築師如来に向日明神の作也太子堂ハ聖德太子三十三才自作影像代に代りの天子と云黄櫨染に袍下製表袴石帯等を毎歲贈進し五の地藏堂の尊像ハ道昌僧正作大酒明神秦始皇に祀る桂宮院推古天皇十二年太子自ら櫻を築る如意輪觀音太子此作又阿弥陀仏ハ隨煬帝より推古天皇へ送らる祖師堂ハ弘

法大師理源大師道昌僧正安住例年九月十日
二日夜成此刺牛祭の神車あり境内東の方小
池あり杜若菖蒲蓮花生し又櫻樹楓多し

此門前以直東小往より二条通小至る南東
小往より三條通小至るなり

○水島社 太秦の東森の中より天照太魂神
と祭る瓊々折尊大己貴命左右小坐し承久乱
小官軍敗きて三浦須義此森中小自害せし事
承久記小見へり又蘇我朝ハ本社ハ東より
て糸綿以商小人此社以敬と西の傍に清泉あり



て世の人元札としく石鳥居八角の挂なり例
祭九月廿一日齋粮神事ハ三月十一日なり神

興ハ西陣織職糸商人長を昇
○海生寺 太秦の南竹林の中より草菴小
て閑山深山禪師ハ像を安す世人車僧と云

○梅宮 四條の西梅津里より京より一里三
十丁計祭神四坐り酒解神大若子小若子酒
解子神相殿橋清友檀林皇后嘉智子を安す往

古嵯峨天皇ハ愛妃檀林皇后當社此砂を敷て
仁明天皇ハ産玉より今小安産を祈願す
る者多し例祭四月上は申日
此社より東小戻きハ京都四條通西口入る

○製紙場 桂川ハ東岸小坊で梅宮より五町計
西ハヒールフアブリクと号し明治九年一月
開業西洋の畚械を備へ洋紙敷品を製し近時
マロソコ染紙活字印刷罫紙等の製造をも為
し是より川を距へて松尾小至る

○梅津渡 大井川の流きなり此辺少々梅津川
と云松の尾への涉り舟あり此下より桂川と



云は是より川下七町計上野橋あり
 ○松尾神社 梅津に對す川向ひ山田村あり
 京より二里五町祭神大山寺神市村島姫神大
 宝元年祭都理分土山山田より近坐す當社其
 神と酒造の神と稱を松尾七社ハ月讀社櫻谷
 三の宮宗像社衣手社四大神木社なり例歲五
 月上酉日官祭四月二日官幣大社あり神輿七
 基西七條旅所より桂川を舟にて祭礼あり
 ○月讀社 松尾の南二町小あり松尾七社の内
 あり文德帝御宇仁壽三年天下痘瘡大小流行

す諸人是を愁ふ此時堂社其神託ありて其害
 と免す是よりて痘瘡の害を免さん為此社
 小いともを祈り事三代實録に見へり

○萃巖寺 月讀社の南谷村竹林に中より宗
 旨萃巖本尊大日如來左釈迦仏右開基鳳潭像
 と安を門外額萃巖寺ハ黃藥隱元の筆左右の
 聯ハ鳳潭其筆

○西芳寺 松尾の南葉室より禪宗本尊阿彌
 陀ハ聖德太子の作開基ハ聖武帝御宇天平年
 中行基中興夢窓國師之方丈の庭ハ夢窓其作
 了所也庭中の造化四時其風光玄妙なり此
 類ハ一仙殿を西來堂といふ本尊來迎其像也
 瑠璃殿釣寂殿書院を云ふ疏精賣風后縮遠亭
 黃金地向上関小門と云指東庵開山夢國師の
 塔湘南亭池の中其亭といふ士峯一覽潭北軒
 貯清影向石等其名所あり

○衣笠山地藏院 西芳寺の南より禪宗小
 て天竜寺小属を本尊地藏尊開山宗鏡禪師旧
 此地藏衣笠内府家良の山莊より後山を衣
 笠山といふ細川頼之當寺は建立して諸堂

嚴重、り應仁の兵火に罹りて亡、瘞も今延慶庵の遺り也

○淨住寺 葉室小あを葉室山と号し禪宗黃檗派本尊如意輪觀音坐像七寸天竺仏にて鉄牛和尚感得の尊像也旧開基眞聖上人也其元葉室中納言定然寺を建て開居此地なり年經て寺瘞す元禄二年鉄牛再建す

○桂川 大井川の流し、舟渡、り丹波道なり

○桂里 川其西小あを上桂、梅津の北小はり下桂、松の尾の南より神代月讀尊降誕の地此ニ桂樹あり故小名とす

○廻地藏 下桂小あり華洛七道の一なり六地藏其一

○御靈社 中桂小より橋邊成を祀る

○桂の御茶屋 徳大寺村の東小より林泉山風景の美麗なり清趣紙筆小煮、り、旧桂宮に御別荘小して今公園の一とす

○西山御坊 下桂の西河島村にあり西木願寺の掛所にして久遠寺と号し阿彌陀堂本尊阿彌



陀仏、安阿彌の作開基覚如上人ケテ、の面木作、面なり旱年里人、れを祭、り雨を祈、れ、バ忽ち其驗、り、と云ふ當村小災、れ、バケチ、く、鳴、て凶兆を知ら、故小名と、いと云

○桂川鐵橋 七條通の南二町桂川、架、是京都停車場より大坂停車場へ至る瀛車、道路なり蓋、明治九年九月建築落成、

○唐櫃越 葉室、淨住寺と地藏院と、其間より丹波國王子村へ出、は間道を、り峠小大木、松、數株、あり

○老坂 又大枝坂と云榎原は西一里小の峠の西一町計小山城丹波は國堺なり此所民家の多し峠は里とり丹波國は産物を運送して賣買ふ市場なり

○酒吞童子首塚 此所小なり源頼光大江山の鬼人を平らぎ首を此所へ梟しと云

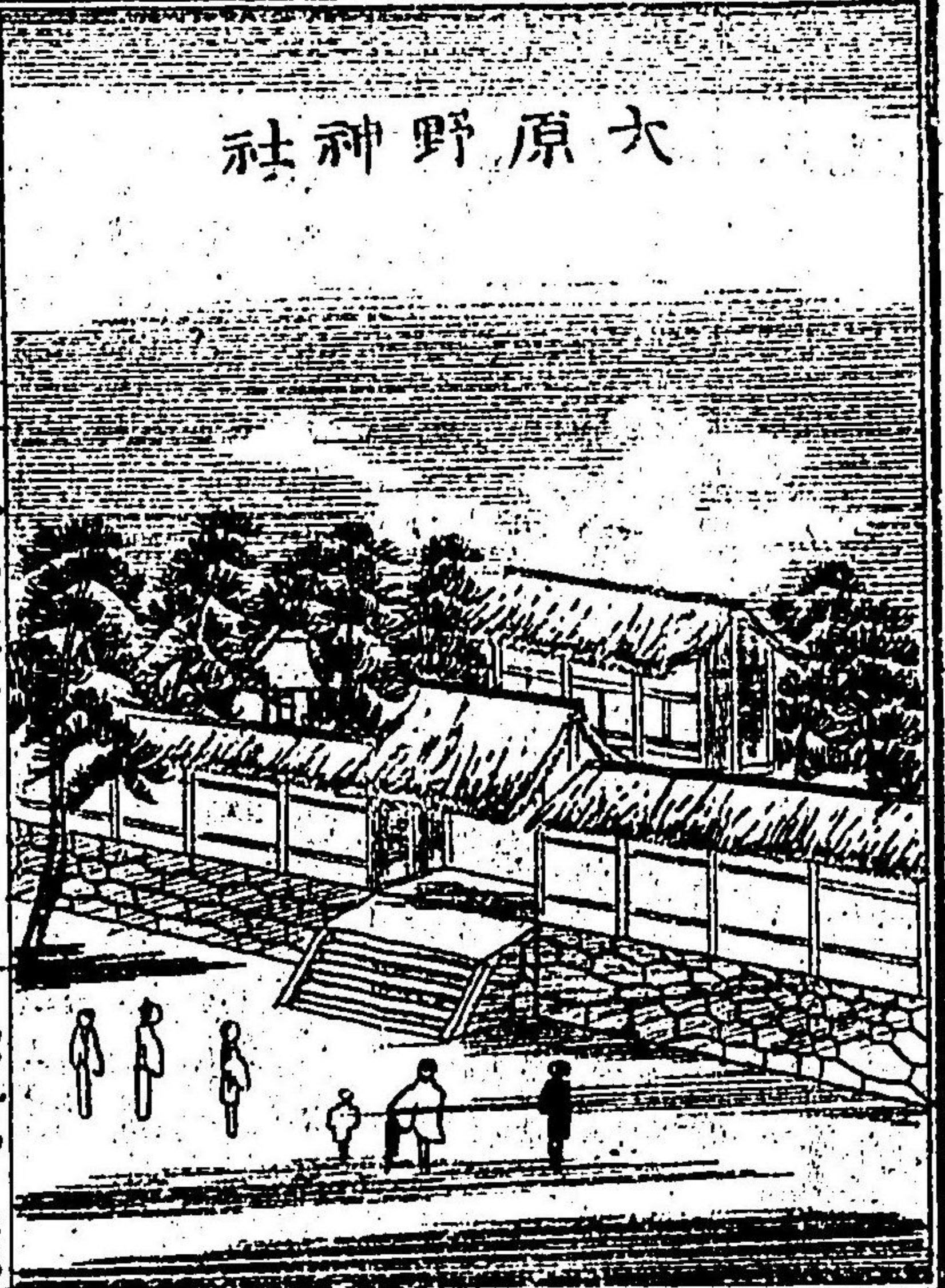
○峠地藏 同所小なり大福寺と号し古市盛長者は娘難産死に其追福小地藏堂を建立去て産婦の難を免れんとす

此所より丹波國龜岡へ一里十二町なり京都より四里十八町又龜岡より能勢妙見宮へ四里廿八町又龜岡より福智山へ出ると山陰道の本街道とい

○榎原 老坂は東一里二十八町小なり七條通維新後村号を更め岡村と号し山陰道は駅通小なり民家繁栄なり此村の西小香樹村なり

○大原野神社 榎原の南大原野村小なり官幣中社春日神社祭神武甕槌神經津主神天兒屋命姫神宮祭二月八日創建仁明天皇嘉祥三年左大臣冬嗣南都三笠山より勧請一平安城

大原野神社



守護神と定む鯉沢池社の南小なり龍神を祭花の寺 大原野春日社の西小なり京都より三里十二町小嶽山勝持寺と云天台宗本尊藥師傳教大師は作開基役行者なり自作の不動

明王なり本尊として大原寺と号し本堂の額は小野道風の手白加藍僧坊四十九院籠々として嚴重なり年經て破壊したるが文徳天皇

皇山陀上人を歸依して再建なり也岩窟の石不動弘法大師の作西行法師像西行様西行菴室は山上三町計小なり當境内小櫻花

盛の頃、都下の貴賤此小来りて遊觀す又
役行者の窟深野沼辨財天社あり昆沙門天地
藏菩薩傳教大師作本堂小安以鎮守白山社二
王門金剛力士を安以建慶滿慶の作元相年中
木下若狹守勝俊此小開居して天鼓翁長嘯子
と号し又細川幽齋長岡小開居し此寺小於て
元龜二年運哥を興行いひきを大原千向とて
此小名高し

○西岩倉 七訓郡灰方村北南長峯、木の西に
あり金藏寺と云天台宗本尊十一面觀音向日
神作と云不動堂小五大尊は安以念仏堂小阿
彌陀を安以境小三段小流きさほ滝あり開基ハ
隆豊神師也創建ハ桓武天皇平安城へ遷都の
時玉城の四方小石倉を造りて大乘經を収め
玉ふれ一ヶ所なり

○栢社 灰方の南林の中に在りて祭神大歲神小
して向日社地主神の母神なり

○三鈿寺 灰谷の上小あり京都より四里五丁
西山と号し元兼宗本尊仙眼曼陀羅ハ觀性
法橋筆日本無類曼陀羅なりと云ふ左右小紙廻

三結寺

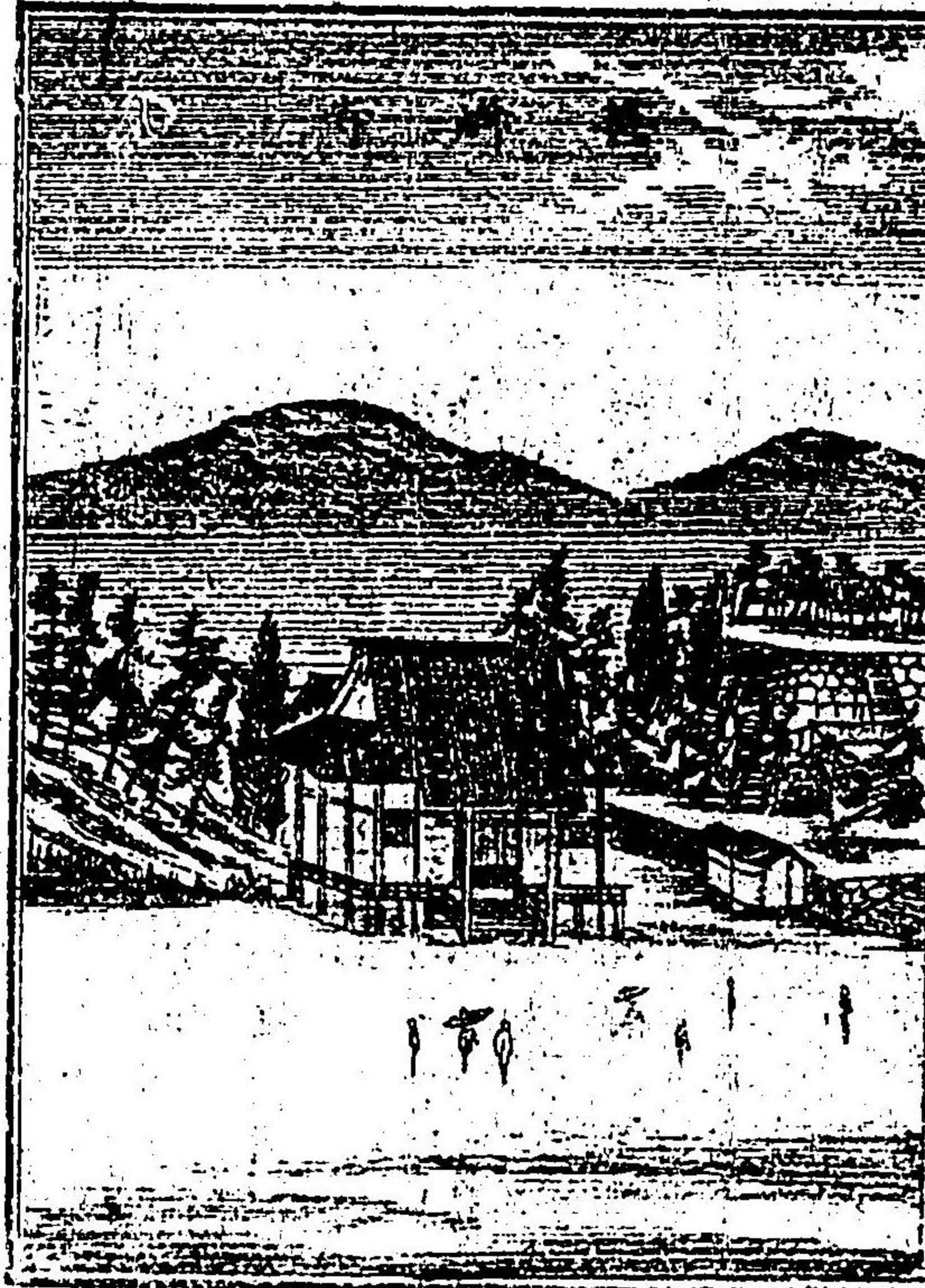


阿彌陀を安以惠心僧都の作堂前小智者大師
善導大師善惠上人宇津宮蓮生法師等ハ像を
安以拘止阿彌陀ハ慈覺大師ハ作也當寺開基
源實上人之中興善惠上人也厩塔ハ三町計山
下小あり世小西山上人と云澤並一泚ハ開祖
かゞ當山ハ高峯として絶頂を管峽と号し其
形三鈿小似り以て名とし此嶺より二大
仙七城見ゆ二大仙ハ京奈良也七城ハ京大
坂淡郡山高嶺也

○善峯 乙訓郡小嶺山其上小あり京都より四

里寺と西山善峰寺と号し天台宗開基源宗上人本尊千手観音は像木八加茂の神木湖木なり行田法師弘仁法師を招き千手は像を作らしむ是洛陽草堂に本尊也其餘材を以て六尺の像と作す是當寺の本尊也阿彌陀堂の本堂は慈覚大師の作二重塔は六日如来を安置白山木仙翁石阿智坂社等なり又親性法橋慈鏡和尚尊田法親王等は壇場山に北より又西龍王松は五葉小一奇木也

○小塩山十輪寺 善峰は麓小塩里より天台



宗小にて善峰寺小属に本尊観音若山法皇西國順礼初小詣て玉ふ故小禪衣観音と云腰帶地藏漆殿皇后安座の為作り玉ふ在原業平塔塩竈古跡湖沼地等あり

○上久世藏王堂 乙訓郡上久世村にあり醫王山光福寺と号し四宗兼宗本尊藏王権現役行者作二王門金剛力士は聖徳太子の作創建は村上天皇天曆年中淨藏賞所の開基也

○鷲尾寺 中久世の西大救小あり本尊薬師仏鷲小乘るほ像也往古ハ嚴重なほ伽藍あり中頃回祿小及び空とあほ今曹洞宗なり

○福田寺 下久世小あり上久世より十町計南西の方本尊地藏菩薩ハ行基の依なり摩耶婦人の像ハ安産の為梁武帝自ら作す所の赤栴檀ハ像なり弘法大師帰朝の時乞得て撰列摩耶山小安し後此小移し龍神の像ハ俊恵法師兩乞の法を修し板井清水ハ名所あり此寺の良小あり

○向日明神 下久世の西南小あり京より二里二十町向日町驛の西側祭神一坐鷲鷲羽尊不

向日明神



合尊此所の産土神とに例祭四月中辰日地主の神ハ本尊の南小回り白日明神と称す素盞烏牟の孫大歳神御子なり貞觀元年正月從五位と授る此社の額ハ小野道風の筆又石座神降臨ハ鳥居の半小回り世小此所を成合塚と云ふハ非ありと

○向日山 向日明神の山と云ふ又鳥見山氏云豊臣秀吉朝鮮征伐出陣の時此社に詣り時社人勝山といふより又名とし

○真經寺 向日町の東小回り日蓮宗の寺と云

像上人住し所也

○願徳寺 向日町北東寺戸村小なり法善提院
と号し天台宗本尊正観音闍基慈覺大師山門

此別院あり

○乙訓社 井内村小なり春日四所并明神を祭
り此里の産土神とし例祭四月辰の日

○乙訓寺 西岡今里小なり大悲山と稱す推古
天皇并御願ふして聖徳大師開基弘仁二年

弘法大師別當に補し大師の像を彫刻し八幡
宮化現れ神像を刻む故に神佛合體に御影と

云本尊是也例年三月廿一日開帳十又寛平法
皇行宮と一玉ゆふり法皇寺に云往古ハ万

境廣大に伽藍嚴重なり中項南禪寺に伯
英和尚住持して真言とい

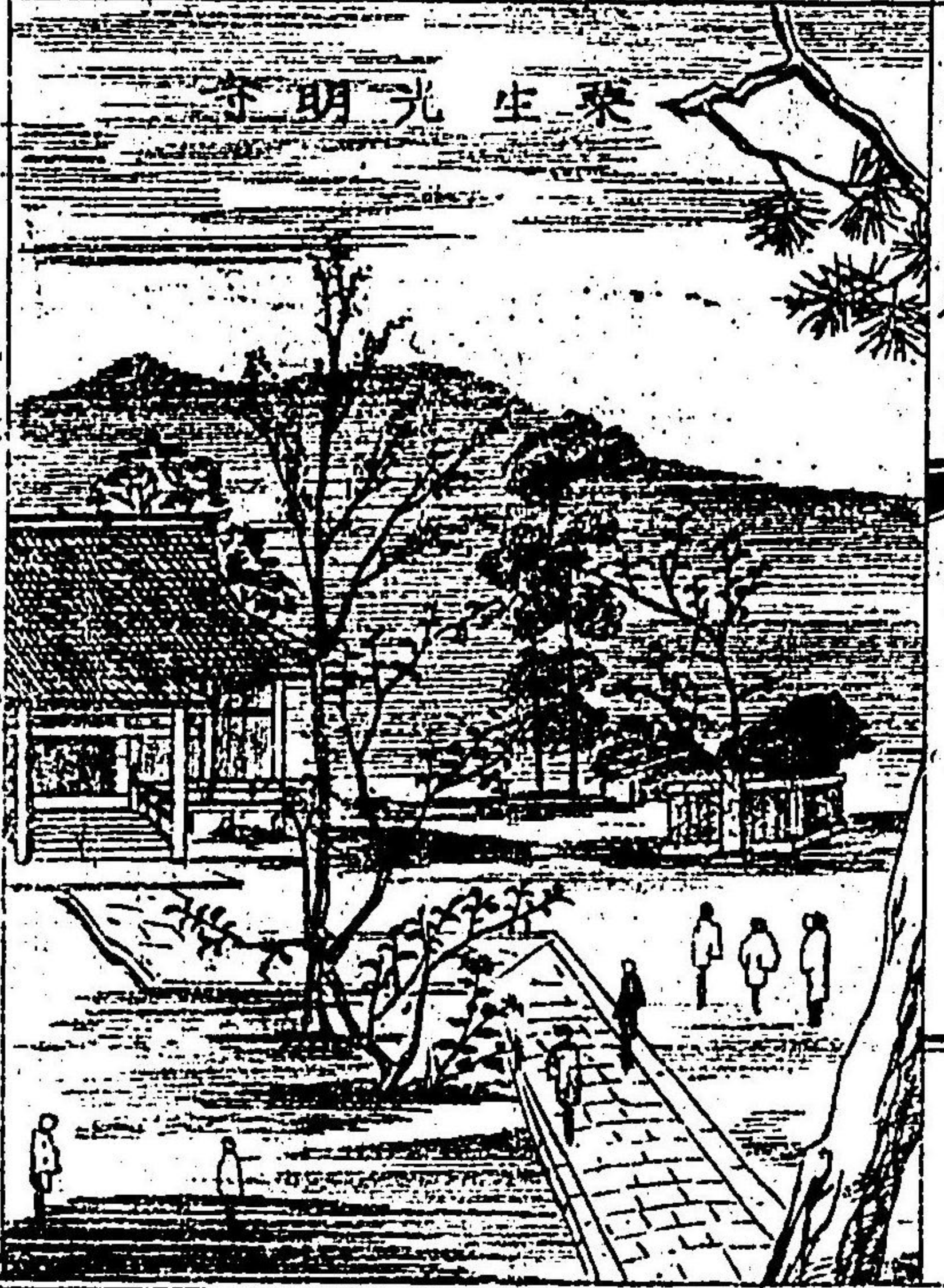
○明星野 今里并東にあり推古天皇離宮此地
なり

○羽東師森 久世より一里計南にして久我暇
の東にあり祭神天津兒屋命

○粟生光明寺 乙訓郡粟生村少なり海土宗親
國山と号し西山派一本寺也本尊四光大師に

三十三

栗生光明寺



像ハ大師四國の地へ配流の時其母より贈る
 消息を以て張り造り自作なりと云阿弥陀
 本尊ハ恵心僧都の作りて近江國堅田淨御
 堂千躰山の中尊なり是ハ熊谷二郎直実入道
 蓮生坊諸國を廻り廻り後に當山に収むる
 所なり當寺ハ堂宇ハ赫格殊小善きを以て其
 精工を賞し工匠之を撰範る者多し法然上
 人ハ厩蓮生坊の塔ハ本堂の後の山上にあり
 ○木上山興海印寺 栗生の南十町余にあり寂
 照院と稱す真言宗ハ殿本尊千手觀音を安ん

抑谷觀音

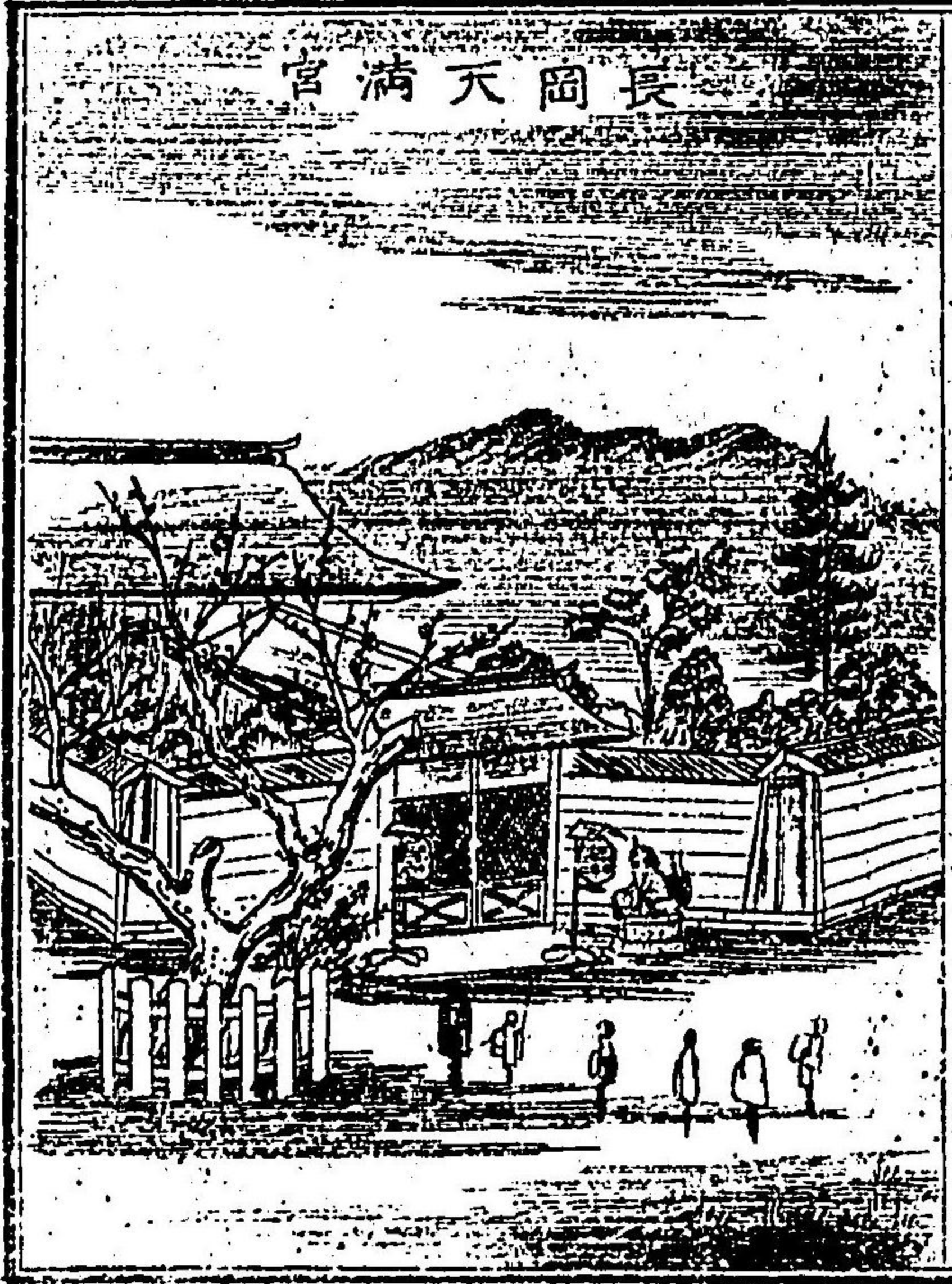


弘法大師の作二王門其金剛力士ハ運慶の作
 関山道雄僧都宗首ハ真言也妙見社ハ西の山
 林ハ此里此産土神トシ

○抑谷觀音堂 與海印寺村北西十八丁計山上
 小立願山揚谷寺也号以本尊千手觀音ハ
 將地藏毘沙門天を脇士トシ白河院御宇
 水觀上人開居の地揚柳ハ瀧本堂の下壇ハ
 又錫鉢水あり眼ハ惱者常ハ參籠シテ其驗
 を蒙リ云京ヨリ四里半

○長岡天神社 乙訓郡開田村ハ京ヨリ三

長岡天満宮



里七丁祭神菅原道真^ノ天満宮あり神殿
 の額ハ靈元天皇震策なり菅公太平府元遷^ル
 時祐房と云者餘波^ヲ惜み^テ菅公自ら尊
 容^ヲ寫し与へ玉ふ所なり境内梅櫻杜鵑楓樹
 等影^ヲ池邊の風色勝^ル遊觀の勝地あり
 ○圓明寺 神足町^ニ山崎^ニ間圓明寺村あり
 京より三里^ハ八町本尊藥師仏聖徳太子作古
 堂塔^{統々}九條殿下光明^寺道家^{創建}
 たり子息圓明寺攝政實經此地小山莊^ヲ構^ヒ
 閑居の地あり終^ニ此所^ニ葬す

○歸海印寺 圓明寺の東下植野村にあり真言宗本尊千手觀音脇士ハ不動明王弘法大師ハ作地藏尊ハ傳教大師作平判官康賴丹波少將成經歸洛後造營あり也

○宝寺 七訓郡大山崎にあり京より四里十二町真言宗補陀洛山寶積寺と云本尊十一面觀音行基大士聖武帝の兩作也堂内の寶頭雷ハ行基の作庭上小聖武帝に御塔有三重塔大日如来を安んず又什賣小打出社小槌は元治元年七月長列藩益田右五門介此小陣十京師の



天 王 山

軍敗きて同二十日真木和泉及び十七人の勇
 士此小唄り塔前に於て割腹す其跡に碑石十
 七基を建例年十月十五日祭祀行ハル
 ○天王山社 同所小唄り素戔嗚御子八王子が
 鎮座す鳥居額ハ小野道風筆觀請の年月詳々
 ナリ神殿梁の銘ハ養老二年再興と書け大
 山崎郷中の産土神也
 ○離宮八幡神社 同所の南性遠の西側小唄り祭
 神應神天皇神功皇后姫神貞觀元年勸請額ハ
 行成の筆社壇下ハ石清水涌出又離宮の称
 ハ嗟哉天皇御狩の時夜泊し玉ふ故る元治
 の乱小市屋及び當社悉く焼失して今ハ仮殿
 ナリ
 右小唄り所ハ京都近隣名譽の社寺及び壯觀の
 地を著ハレのみ此余社寺舊跡に於てハ不遑枚
 舉
 三府名所獨案内卷之三京都之部終

○開益堂細川製本目錄

古今勤王傳略

石津發三郎編輯

全四冊

本書ハ歴朝史傳載スル所ニ就キ其忠義節烈最モ世ニ炳蔚スル
 名家三十有餘人ノ王事ニ勤勞セシ始終ノ事蹟ヲ抄述セシ書ニ
 テ其意ハ親切其文ハ簡明且本文ニ於テ解シカタク人名地名典
 故等ハ巻尾毎ニ註解ヲ施シタレバ童蒙ト雖モ解シ得ベキ書ナ
 リ伏テ冀シバ江湖諸彦本書ヲ購求シ
 テ勤王家ノ事蹟如何ヲ知リシヤハ

頭書

日本政記字類便蒙

江坂彊近編輯

中全三冊

此書ハ政記中解シカクキ字ヲ摘抄シテ注解ヲ加ヘ記事簡ニス
 キテ事跡ノ詳ナラサルハ正史ニ拠リテ之ヲ補ヒ論文故事ヲ用
 ル者ハ必其典故ヲ舉ケ上欄ニハ地名姓名官職等ノ六部ヲ分テ
 地名ハ其國郡ヲ註シ姓名ハ其世系爵位ヲ注シ官職ハ養老令
 原抄ニ拠リ其相當位階及ヒ職掌ヲ註シ務テ童蒙ヲシテ解シ易
 カラシム政記ヲ読ムノ指搦此書ニスギタルハナシ四方ノ君子
 陸續購求アラ
 シヤキヤ

新撰明治玉篇大全

上紙本二冊
 薄用摺巻冊

嘗テ世ニ行ハル字書頗ル多シト雖モ皆字數三四万ニ過キズ
 而シテ音韻訓譯ノ精密ナルハナシ獨リ此書纂輯スル所ノ字數
 凡六万余古文拙文等ノ文字一モ漏スナク逐一之ヲ訂シ其讀
 詳ニシ訓釈ヲ密ニシ且訓釈解シカタクモノハ和訓ノ傍ニ特ニ
 註解熟字等ヲ加ヘ訛謬ナキヲ期シタル一大字典ナリ是ヲ以テ
 発売以來長書ト呼ハレ世ニ流布スル既ニ數万部ニ及ベリ特
 製本日録

ノ僥倖深シ感謝スル所ナリ仰冀カ
フ志学ノ士競争先購閱アラントヲ

四聲 解環詩文必携 馬場文英纂輯 小全四冊

此書ハ初学詩作文綴ナス人ノ便リナラシメノ要キ虚字ヲ
洩ナシ彙ノ懐中ノ小本ニ製シテ譯リ易キヲ主トシイロハ分ケ
ニシテ一字母ニ盡シ韻字ヲ附シ四声ヲ正シ文例ヲ舉ケ字義明
瞭ニ注解シ熟字ヲ加ヘタルハ此一部ヲ枕下ニ置カバ多書ヲ兼
用シ詩作文綴ナスニ自在ナリ世ニ詩文作習ノ書類數多アレモ
未タ此書ニ勝レルヲ聞ス莫シハ四方ノ諸彦是ヲ需メテ其有益
ナルヲ索
シテハ

雲蕉画譜 池田雲蕉先生著 中全五冊

四君子 花卉 陳列 人物 橋梁 屋宇

同 山水 花鳥ノ部 全二冊近刻

「輓近南畫ノ世ニ行ハル、ヤ到ル處トシテ玩賞トサル無シ是ヲ
以テ画譜ノ設ケ急ナラサルハ得ヌ故ニ墨爾來竹共ニ梓ニ上ル
然氏域ハ高尚ニ夫シ或ハ鄙近ニ流レ画学ノ指擗トナスヘキ者
少矣雲蕉先生此ニ慨アリ頃日此ノ画譜ヲ作り後進ヲ誘掖セラ
レントス今我が同志ノ徒先生ニ乞ヒ之ヲ世ニ公
ス再來学画ノ諸君幸テ此書ヲ購ヒ玉ハントヲ

珠笑初歩 吉田忠健著 全四冊 共合卷

此書ハ府下小學生徒ノ為ニ基督教小教大教物教命位ヨリ容易
ト加減兼除及ニ應用雜題數種ヲ掲ゲタル簡ニシテ空ニ分ル

雅俗 日用作文大成 平水保景編輯 全三冊

此書ハ雅俗兩用ノ熟語ト普通又ヲ採録シ編體ノ上下二段ニ區分シ上段ニ四季
慶弔等ノ例文數章ヲ舉ゲ其一章ノ内或ハ三四或ハ六七ニ句断シ此ニ對シテ種
々ノ熟語ヲ集メ傍ニ訓ヲ附シ下ニ和辭ヲ施シ下段ニ民間平常用ニル所ノ往復百
有餘章ノ作例ヲ舉ゲ又卷末ニ於テ啓頭結尾ノ辭ヲ種々ノ雜句ヲ蒐輯シテ書シ初
學尺曉テナスノ指擗トスル近來ノ良書ナリ江湖ノ
諸君購求アリテ其良書ナルヲ知リ玉ヒテ企望ス

挿 十八史略詳解 平水保景編輯 全四冊

此書ハ十八史略ヲ讀ム者ノ為ニ其解シ易キ注釋ヲ集メタルモノナリ素圖アリ地
圖アリ物品ノ形ヲ圖シ物ヲ註シ讀者ノ便利ヲ為ス亦書ノ注釋世間ニ多シト雖
モ皆一字一句ヲ摘ミ出シテ之ヲ講明スルノミ未タ此ノ書ノ如クホ文ノ大意
註解シテモノアラズトシテ此ノ書ヲ坐右ニ置カバ十八史略ニ於テ簡義ニ苦ム
所ナカル可シ未タ此書ニ勝レル註書ハ之レ
無シ四方ノ君子陸續購求アラントヲ乞フ

田中宗輔註釈 越前刑注註釋 洋綴全二冊

此刑法註釋ハ初ニ刑罰ノ道理ヲ解キ逐條其註解ヲ下シ次第ニ從ヒ順序ヲ以
テ註中ニ刑理ヲ交ヘ説キ且ツ實際適用ノ便利ヲ設ケ時トシテ其例ヲ示ス猶
其ノ遺漏ヲ補シカガ為ニ註疏カ上段ニ加ヘ專ラ意味ヲ貫通セシム其ノ初ニ注釋
シタル者ト雖モ後文再ニ之ヲ兼示重説シタルモノハ是其ノ遺漏ナカラシムンガ
為メ註者ノ殊ニ意ヲ用ヒタル所ナリ然レモ其煩ハシキニ過クル者ハ之ヲ簡ニス
ルヲ以テ註者其ノ解ニ苦ム所ナラハ前後ト上段トヲ參考比照セバ猶堅永ノ春陽
ニ迎フカ如クナルハ刑法註解多シト雖煩簡宜
シキニ適スル者此書ヲ除キ幾多キカララン

田中宗雄 著 頭書治罪法註釋

洋綴一冊

治罪法ハ刑法ヲ活用シ犯罪人ニ適當の懲罰ヲ受ケルル爲メノ法律ナル刑法ヲ學ブモノ豫メ之ヲ講明セザル可ラス擬令法律ニ從事スルモノニ非ストモ之ヲ習読セザルニ於テハ法律上ノ權利義務ニ暗ク從テ爲スニ及ハザル徒勞ヲ勤ノ行フ可カラサル權外ニ入リ後許ノ過害不幸ヲ醸生スルモ許ラハス故ニ此ノ註釈ニ於テハ本文ノ意味ヲ説クニ務メテ之ヲ平易ニシテ略々文字ヲ解シ得ルモノ爲メニ其ノ真意ト權義トヲ明ク易カラシム措其ノニ段ニ於テ餘意ヲ備ヒ法理ヲ説クニテ丁重以テ現行法律ヲ學ブノ便利ニ供スルニ一説シテ此ノ書ノ經ニナルヲ知リ五ノ

田中宗雄 註 新 著 頭書治罪法書式註釋

洋綴一冊

治罪法ハ被告人ノ罪狀ヲ證明シ其ノ有無輕重ヲ査定スル法律ナル事ニ願ハシク其ノ被害人間傷人等ニ對シテ發スル所ノ書狀規則亦彼ヲテシテ之ニルヲ得ズ此ノ書狀規則ヲ一書ニ集輯シ之ヲ治罪法書式ト云フ也此ノ書狀或ハ書式ニ違背アレハ其ノ從前爲シタル手續無効ニ爲スルヲテ之ニ上大差異ヲ生スルナシト爲ス故ニ治罪法ヲ講明スル者ハ必ズ此ノ書狀規則ヲシテ今狀中收監狀ハ此ノ如ク召喚狀ハ云々又其ノ宣誓トハ如何ナルヲ云々云々乎ヲ知ラザレバ治罪法ノ實施ヲ試ム能ハス今此ノ書式ニ註釋ヲ施スルニ治罪法ト相重リ蛇足ニ似タリト雖モ治罪法ヲ及覆翻閱スルノ勞ヲ省キ一説ニ其ノ何狀ノ事件ニ必要ナル何ノ場合ニ於テハ此書狀ヲ用フルヲ掲著シハ良書ナリ治罪法ヲ講習スル諸君ノ一覽ニ供セント欲スルニ爲請求者ニ

皇井吉太郎 註 佛刑法治罪法字引

洋綴一冊

法律書ノ註解多ク雖大抵本文ノ大意ヲ證明スルニ止リ字義ヲ明ニシ以テ初學ヲ誘導スル便書ニアラズ此書ハ熟字ヲ集メ假名ノ施シ尤傍ニ於テ大意ヲ擧ゲ註釋ニ於テ本義ヲ解明ス法律ヲ學ブ諸君之ヲ坐右ニ置キ註解ノ書ト并セ看玉ハ所問ヲ方セズチ上達スルニ資ス

明治廿八年二月廿五日印刷

今年三月廿日出版

定價金廿五錢

編輯人 岩寄 喜 助

京都市下京區祇園界 南側二百三十四番戶

發行者 細川 清 助

京都市下京區三條通 寺界西入廿番戶

印刷者 角川 傳三 郎

京都市上京區麩屋町 御池上六廿三番戶

